

溪仁会グループ

CSRレポート2025

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2025



「ずーっと。」  溪仁会グループ
人と社会を支える

医療
法人 溪仁会

社会福祉
法人 溪仁会

株式
会社 ソーシャル

医療
法人 稲生会



溪仁会グループの 社会的使命



「**ずーっと。**」

人と社会を支える[®]

溪仁会グループ

私たち溪仁会グループは、社会的責任(CSR)経営を推進します。

高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、

「一人ひとりの生涯にわたる安心」と

「地域社会の継続的な安心」を支えます。

シンボルマークについて

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。

その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、

勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。

ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」を

ひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

溪仁会グループの事業理念

信頼の確立

安心感と満足の提供

プロフェッショナル・マインドの追求

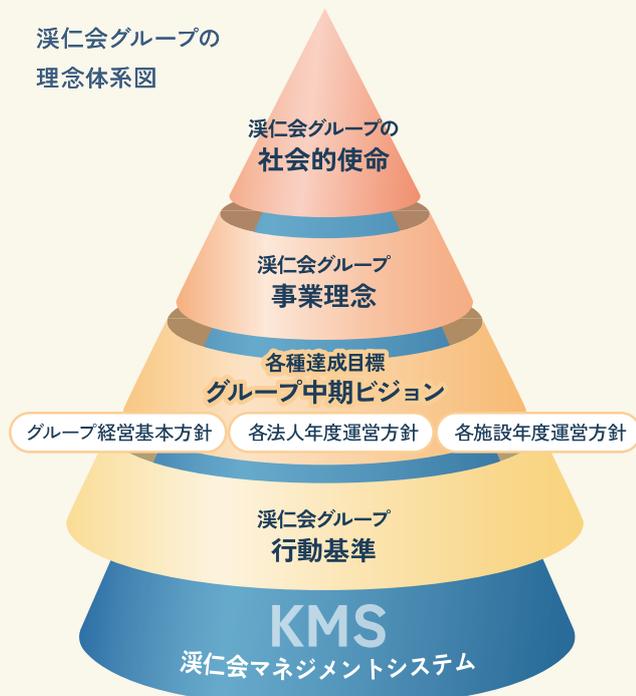
変革の精神

グループ経営の理念とその体系

私たち溪仁会グループは、「ずーっと。」を合言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。「保健・医療・介護・福祉」のサービスの質を「公益性(人)」、経営の質を「継続性(社会)」という言葉で表現しています。

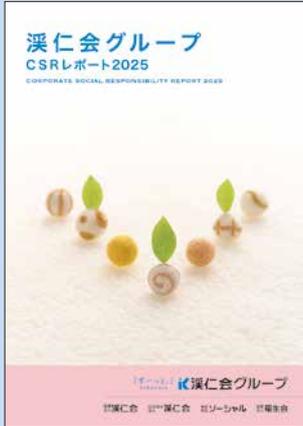
「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、溪仁会マネジメントシステム(KMS)を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。

溪仁会グループの理念体系図



溪仁会グループ CSRレポート 2025

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT 2025



【表紙について】さまざまな事業や取り組みが芽吹き、未来につながっていくイメージを表現しています。

編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

CSRレポート2025では、第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」の達成をめざして進めてきた取り組みを軸に編集をしています。巻頭では、地域社会の課題に対する溪仁会グループと各施設の取り組みを特集としてまとめました。また、開始から5年が経過した「看護師特定行為研修」の現在の活動状況や課題について論議する座談会を行い、収録しています。

第三者意見は、小樽商科大学学長の穴沢 眞氏にお願いいたしました。ご協力いただいた皆さんの声は、当グループの今後の事業の在り方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2024年度(2024年4月～2025年3月)の活動やデータを中心に、2023年度以前や2025年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーは、当グループのホームページ上で公開しております。
URL <https://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2026年11月発行を予定しています。

●発行

医療法人溪仁会 法人本部 2025年11月

●お問い合わせ先

医療法人溪仁会 法人本部
経営企画部 広報課

〒006-0811

札幌市手稲区前田1条12丁目2-30

溪仁会ビル3F

TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

CONTENTS

溪仁会グループの社会的使命	P02
溪仁会グループの事業理念	P03

特集

医療・福祉の未来を見据えて	P05
地域社会の課題に挑む溪仁会グループの取り組み	

ステークホルダーダイアログ

看護師特定行為研修	P14
～開始から5年を経て見えてきた成果と課題、未来の姿～	

2024年度溪仁会グループ 活動TOPICS

溪仁会ほっとピックス	P30
溪仁会グループの活動の数字	P32
施設別TOPICS & 活動報告	P34

TOP MESSAGE

地域を支え続けていくために 組織の持続的成長と 経営基盤の強化をめざす

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 成田 吉明	P46
第三者意見	P48
溪仁会グループ概要	P49
溪仁会グループ一覧	P50

溪仁会グループ「CSRレポート2025」アンケートご協力をお願い

本レポートへのご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。お手持ちのスマートフォンやパソコンなどで右の二次元バーコードを読み取っていただき、アンケートページにアクセスしてご回答ください。(回答期限:2026年9月30日)





特集 医療・福祉の未来[★]を見据えて

地域社会の課題に挑む溪仁会グループの取り組み

超高齢社会を迎え、高齢者の人口がピークに達するといわれる2040年に向けて、
今後も少子高齢化はますます進み、多くの社会的な問題の発生が予測されています。
地域の方々の安心を支えるために、溪仁会グループは保健・医療・介護・福祉の複合事業体として
皆さまにとって必要不可欠なサービスを切れ目なく提供し続けてきました。

本特集では、地域社会が課題とする3つのテーマについての
溪仁会グループおよび各施設での取り組みをご紹介します。

Theme

1

地域の救急医療を支え、 高度な医療体制の構築によって生命を守る

急病やケガに対する救急医療をいついかなる時も受けられることは、地域に住まう方々の安心につながります。手稲溪仁会病院は365日、24時間体制で患者さんを受け入れる救命救急センターを中心に高度な救急医療体制を築き、地域の生命を守る取り組みを続けています。

Theme

2

多様な医療・福祉人財を受け入れ、 キャリア形成の支援によって質の高いサービスの実現をめざす

医療や介護の現場での人財不足が進み、地域でのサービス提供体制の確保が課題となっています。溪仁会グループでは外国籍人財を積極的に受け入れ、キャリア形成の支援や働きやすい環境づくりによって、質の高い医療・福祉サービスの提供をめざしていきます。

Theme

3

療養や介護を必要とされる方が、 住み慣れた地域で暮らし続けられるように支える

「できる限り、住み慣れた場所で自立した生活を続けたい」。そう願う方たちの思いをかなえるため、溪仁会グループは地域に根ざした取り組みを大切にしています。その方が望む暮らしを実現できるように、グループ内外で連携し、さまざまな角度からの支援を行っています。



私たちの
Action➔

あらゆる救急患者を救うという使命 救急医療の未来を見据え、挑戦を続ける

手稲溪仁会病院救命救急センターは2005年の開設以来、軽症者から重症者までを受け入れ、断らない救急医療を実践しています。奈良理救命救急センター長は「当病院は重篤な疾患や重傷者を受け持つ3次救急病院に指定されていますが、一人でも多くの方を救うことを使命として20年間活動を続けてきました。これほど幅広い救急患者に対応している病院は決して多くありません」と言います。

医師の不足や働き方改革によって、救急医療の維持が難しい医療機関が増える中、同センターへの受け入れ要請は増え続けています。また、高齢者の救急搬送の増加や多様化するニーズへの対応などもいっそう求められています。こうした状況の中でも、同センターが高度な救急医療を維持できる理由について、奈良セン

ター長は「まず当センターが入り口となり、経験豊かな救急医が患者さんの状態を見極めた上で、専門的な医療が必要な場合は各診療科に引き継ぎ、適切な治療を行います。当センターの機能を維持する上で、院内の協力体制は不可欠です」と説明します。

奈良センター長が今後の展望として描くのが、重症の外傷診療に特化した「外傷センター」の設立です。近年は、自動車事故による救急搬送が大きく減る一方、建設現場での事故が増えるなど、従来とは外傷の発生数や要因が変化しつつあります。重傷の外傷者への対応を集約し、救命率を上げるためにも、「実現したい」と奈良センター長は力を込めます。「院内からも、挑戦してみたいという声が上がっています。外科系部門などの協力を得ながら、設立に向けた土台づくりに取り組みたいと考えています」



手稲溪仁会病院
救命救急センター
センター長
奈良 理



多様な救急ニーズに的確に応え、より多くの生命を救うために

【手稲溪仁会病院】

高齢者救急

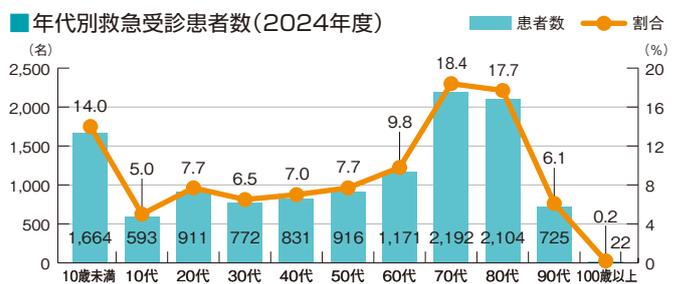
増え続ける高齢者の救急搬送に医療連携を活用して対応

社会の高齢化に伴い、高齢者の救急搬送数が増加し続けています。2024年度の手稲溪仁会病院救命救急センターの救急受診患者に占める高齢者の割合は52.2%に達しました。その中には、必ずしも救急対応や高度医療が必要ではないものの、高齢世帯であったり身寄りがいないなど、救急搬送に頼らざるを得ない事情を抱える方が多いのも実情です。

同センターではそうした状況を踏まえ、夜間や休日はできる限り高齢者の救急搬送を受け入れる方針をとっています。受け入れ後は初期診療を行い、軽症の患者さんはかかりつけの医療機関や慢性期病院などに引き継ぎます。また地域の医療機関とのネットワークや、札幌西円山病院、定山溪病院とのグループ内連携によ

て、スムーズな転院を実現しています。

高齢者救急を取り巻く課題は、社会全体で考えていく必要があります。同病院では地域の医療機関や行政機関などとも連携し、高齢者救急の維持や質の向上に取り組んでいます。



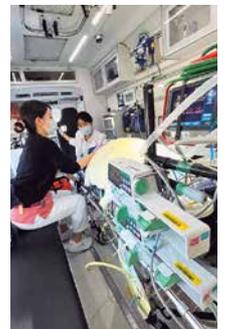
小児救急

小児の重症患者さんに特化した切れ目のないトータルケアを提供

2021年に設立された手稲溪仁会病院の「こども救命センター」では、小児の重症患者の搬送から初期診療、集中治療、治療後のケアまで切れ目なく提供する体制を整えています。

小児救急の特徴は、患者さんの約半数が先天性の病気の悪化によるもので、通常の救急医療では対応が難しいケースも多いということです。最初に受け入れた医療機関では対応できない患者さんがいた場合、依頼を受けた「こども救命センター」の搬送チームが、専用救急車やドクターヘリなども活用し、安全かつ速やかに搬送し

ます。診療は小児集中治療の経験を積んだ医師が担当し、院内の救命救急センターや各診療科とも連携して重篤な病気や外傷などに対応するほか、必要に応じて、緊急手術や高度治療も行います。また、小児救急医療の向上をめざし、外部の医師の研修受け入れや医療機関とのネットワークづくりにも取り組んでいます。



周産期救急

産科と各診療科が連携してリスクの高い妊娠・出産に備える

出産前後の周産期には、合併症などにより、母親や胎児、新生児が生命の危機にさらされる可能性が高まります。手稲溪仁会病院では、産科を中心に各診療科が協力し、周産期の救急医療に対応しています。

近年はリスクを伴う妊娠・出産が増える傾向にあるため(P35参照)、同病院ではNICU(新生児集中治療室)を併設し、他院での分娩を含め、緊急の治療が必要な新生児を速やかに受け入れる体制を築いています。また、出産時の出血性ショックなど、母体の生命が危ぶまれる場合は、救命救急センターや他科と連携し、高度な救命医療を提供します。

同病院ではガイドライン・マニュアルの作成や見直し、シミュレーションなどを行い周産期の救急対応を強化しており、地域の医療機関とも連携を図りながら、母子の生命を支えています。



私たちの Action➔

看護師の経験を活かし、患者さんを支える この病院で働いて良かったと感じています

少子化や働き方の変化によって、医療や福祉の現場では担い手の不足が大きな課題になっています。札幌西円山病院では、2021年から介護スタッフとして外国籍人材を受け入れ、日本での暮らしやキャリア形成を支援してきました。

2024年8月に入職したインド出身のムキム・エルミラさんは、インドで看護師資格を取得した後、急性期医療の現場で3年間働いた経験の持ち主。「海外で働いてみたい、という夢があり、安全性の高さや看護師の経験を活かして患者さんの手助けができることにひかれ、日本で働くことを決めました」と言います。

現在は、看護補助を担うナースングサポーターとして、入浴や移動、食事などの介助、ベッドサイドでの治療の準備、病室やベッドの清掃など、入院患者さんの生活への支援や環境の整備を行っています。また夜勤も担当するなど、看護・介護サービスを維持する上で、欠かすことのできない存在になっています。「大切にしているのは患者さんの安全を守ること。特に、移動や入浴の介助など

は、事故が起きないように注意をしています」と、医療現場で働くスタッフとしての責任感を語ります。一方で日本語での会話はまだ戸惑うことが多く、月に1度、院内で実施している日本語の勉強会などを活用しながら、上達をめざしています。

「わからないことがあれば、すぐに周りのスタッフに質問できるので不安はありません」と笑顔を見せるエルミラさん。院内でも、その活躍に高い期待が寄せられています。今後、同病院では外国籍人材の仕事や生活への支援をより拡充し、チーム医療の一員として働き続けられる環境づくりを進めていきます。



札幌西円山病院
看護介護部
ムキム・エルミラ



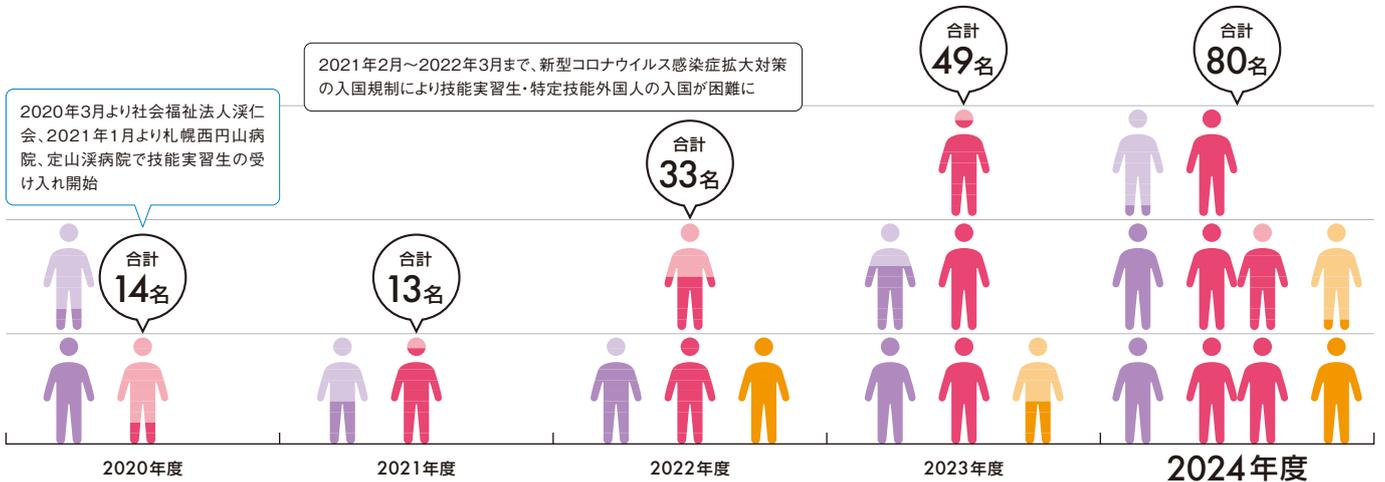
外国籍スタッフが活躍できる職場環境をつくるために

【溪仁会グループの各法人・施設】

1人 = 10名

■ 溪仁会グループ各施設での外国籍スタッフ(看護補助者・介護)の受け入れ状況

技能実習 特定技能 その他(留学生・医療ビザなど)



溪仁会グループの各施設では、技能実習や特定技能などの制度で来日した外国籍スタッフが、介護や看護補助の業務に従事しています。外国籍スタッフの受け入れの際には、職務に関する教育や日本語の支援のほかにも、住居や家電・生活必需品の準備や各種行政手続きなどの生活サポートも必要であり、各施設ごとに適切な体制を整え、必要な支援を行っています。

外国籍スタッフの出身国により文化や習慣が異なるため、安心して活躍してもらうためにはそれぞれに寄り添った支援が必要です。札幌西円山病院では、2024年から新たにインド人スタッフの受け入れを開始しました。これに伴い入職半年前に外国人支援ワーキンググループを立ち上げ、配属部署や看護介護部門を中心

にインドの国や文化を学ぶ学習会を実施して準備を行いました。

インド人スタッフが来日してからは、病院独自の「ナースिंगサポート業務基準キャリア支援プログラム」に基づいた支援のほか、現場で必要となる日本語の学習会などの支援を実施。ほかにも、職場になじんでもらうための日本人職員を交えた交流会や、日本文化に触れる小旅行などを企画し、働きやすい環境を整えています。



札幌西円山病院での外国籍スタッフとの交流会の様子

Pick Up!

社会福祉法人溪仁会

日本語スキルから資格取得支援まで 外国籍人財の成長を法人でバックアップ

社会福祉法人溪仁会では、技能実習生・特定技能外国人合わせて2025年3月現在で62人の外国籍人財を受け入れています。受け入れ開始当初から配属施設でサポートを行っていましたが、受け入れ人数が増え、またキャリアアップを希望するスタッフも出てきたため、法人全体での教育・研修体制を整えました。

来日したスタッフは入国後2～3カ月間、札幌市内の施設では週2回のオンライン日本語教室を、きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の社の2施設では地域の教師による日本語教室を受講できる体制を整えています。

また法人主催の研修会にふりがなを付けた資料を用意したり、

2024年度新入職員研修会では外国籍スタッフ向けの研修を単独開催するなど、学びやすい環境づくりに努めています。そのほか、介護職向け研修では言語サポートを担当する先輩職員を配置し、フォローアップ研修を3カ月後に開催して、理解と定着を図っています。

外国籍スタッフの中には、介護福祉士資格を得てから在留資格を切り替え、継続して日本で働くことを希望する方もいるため、介護福祉士資格の初回受験費用を支援する制度を整えたほか、受験対策講座として自宅模試を実施しています。

さらなる活躍をめざす外国籍スタッフの希望に応えるため、今後も法人・各施設での支援体制を整えていく予定です。



法人主催の新入職員研修会の様子



日本語教師による日本語教室

私たちの Action➔

その人らしい生き方を尊重するために 対話を重ね、希望する未来を共に考えていく

その人が人生において望む生き方や受けたい医療・ケアについて、ご家族や医療・介護スタッフを交えて繰り返し話し合い、意思決定を支援する「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」という取り組みがあります。この取り組みは厚生労働省による「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン(2018年)」により、広く知られるようになりました。病気や要介護状態になっても、本人の思いを尊重した医療・ケアが実現できるようにするため、医療や介護の現場ではACPを推進する動きが広がっています。

手稲家庭医療クリニックでは、がんの治療を終えた患者さんとの関わりが多く、その人らしい生き方を支える方法を模索する中で、ACPへの本格的な取り組みが始まりました。三國輝美看護師は「2023年からはACPの啓発にも力を入れ、市民講座や医療・福祉従事者対象の勉強会、社会福祉法人溪仁会の施設での研修会などを、2年間で10回ほど開催してきました」と話します。

活動を続ける中で気付いたのがACPに対する関心の高さでした。「もっと早く知りたかった」「こういうことを話し合いたかった」という声も多く、三國さんがACPを実践する場面も増えています。「患者さん対話を重ねて信頼関係を築き、本当の思いをくみ取ることを大切にしています。聞き取った思いは職員間で共有し、希望される医療・ケアの実現を多職種が連携して支援します」。同クリニックでは、ACPの取り組みをさらに充実させていくため、事例検討や振り返りなどを行い、職員のスキルアップを図っています。

ACPが浸透してきたこともあり、元気なうちから将来の生き方を考える人が増えてきました。「ACPが根付き、誰もが日常の中で実践するようになるのが理想です」と三國さんは言います。患者さんと共にどう生きるのかを考える活動がこれからも続きます。



手稲家庭医療クリニック
三國 輝美

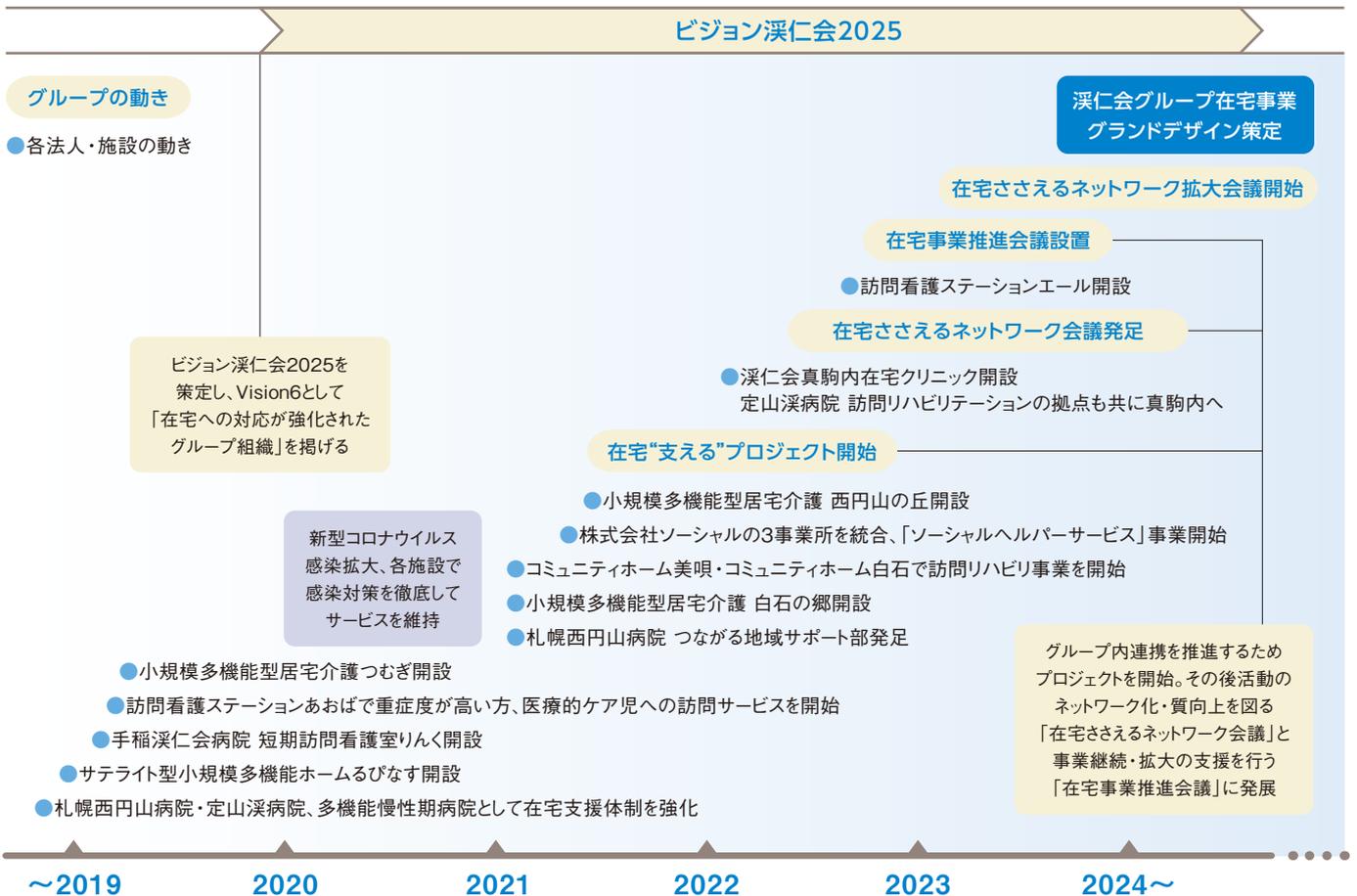


地域の方に向けたACPの講演会では、余命宣告を受けた時に自分が大切にしたいことを、配られたカードの中から選んでその理由を話し合う「もしバナゲーム」を取り入れています。同ゲームを行うことで参加者は自身の価値観を再確認するとともに、人生の最終段階についても考えるきっかけになっています。

その方の人生に寄り添い、希望に沿ったケアやサービスを届けるために

【溪仁会グループ】

ビジョン溪仁会2025における在宅支援の取り組みの発展



Pick Up!

手稲溪仁会病院、定山溪病院

ACPへの理解や実践に向けた活動を促し患者さんが望む医療やケアの実現をめざす

手稲溪仁会病院では2023年にACPの指針を策定し、2024年から運用を開始しました。指針では、各診療科の外来や病棟で、患者さんやご家族などと多職種の医療スタッフがACPの話し合いを行うことや、具体的に話しておくことが望ましい内容などを示しています。また、「ACP(人生会議)自分らしくあるために話し合っておこう」というパンフレットを作成し、希望する医療・ケアを考えるきっかけづくりやACPの実践に役立っています。

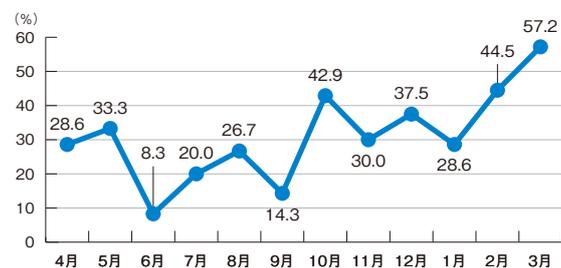
手稲溪仁会病院が作成したACPのパンフレット



定山溪病院は早くからACPに取り組み、2018年にガイドライン(P10参照)に基づいた指針を策定しています。2024年にはACPと看取り指針を合わせた実践的な指針に改訂しました。また、地域向けの公開講座や院内研修も行い、ACPへの理解を広げています。



定山溪病院のエンド・オブ・ライフケア研修の様子



(写真)コミュニティホーム岩内では、自宅復帰後の生活に近い動作を取り入れたリハビリを行っています。階段の上り下りや洗濯などの家事のほか、中庭に設けた菜園での作業など利用者さんが楽しめる内容も取り入れています

(グラフ)コミュニティホーム岩内 在宅復帰率の推移(2024年4月~2025年3月)

Theme 3 療養や介護を必要とされる方が、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支える

私たちの Action → 計画的な支援と生活を見据えたリハビリで ご自宅への復帰をかなえる

介護老人保健施設は、病院で治療などを終えた方や一時的に介護が必要になった方がご自宅に戻ること支援する、医療と生活の場をつなぐ施設です。コミュニティホーム岩内は2023年12月に「自立支援プロジェクト」を立ち上げ、在宅復帰サポートを強化してきました。五十嵐智孝支援相談課長は「以前は長期入所の方が多く、本来の老健の役割を果たせていませんでした。プロジェクト実行にあたり、計画的にリハビリテーションなどを提供し、在宅復帰を願う方の思いに応えることをめざしました」と振り返ります。

プロジェクトでは勉強会などを開催し、職員の意識改革を促すとともに、地域のケアマネジャーなどに施設の機能の情報発信を行いました。また、ショートカンファレンスの開催や退所時情報提供書の変更、「在宅復帰パス」という計画書の作成などにより、施設内外での情報共有や多職種連携も促進しています。同

時にリハビリテーション課では、在宅復帰を見据えた生活面や身体面の支援に取り組みました。同課の小中谷和広主任は「可能な限り家屋調査を行い、生活環境を把握した上で家事動作や農作業なども取り入れ、リハビリを組み立てています。また、遠方で暮らすご家族には、動画やビデオ通話などを使い、利用者さんの実際の状況を伝えています」と説明します。こうした取り組みによって、在宅復帰率は向上していきましました(上記グラフ参照)。

今後の目標について「多職種が連携し、認知症のチームケアの質を高めていきたい」と話す五十嵐課長。小中谷主任は「リハビリ機能を高めた自立支援型のユニットサービスができれば」と希望を語ります。職員が力を合わせて介護老人保健施設の役割を追求し、在宅復帰をめざす利用者さんを支えていきます。



コミュニティホーム岩内
経営管理部 支援相談課
課長 **五十嵐 智孝**



コミュニティホーム岩内
リハビリテーション部
リハビリテーション課
主任 **小中谷 和広**

質の高いサービスを地域で切れ目なく提供するために

【溪仁会グループ】

Pick Up!

コミュニティホーム岩内

訪問リハビリや自治体と連携した取り組みで 地域で暮らす高齢の方々の生活と健康を支える

コミュニティホーム岩内は、多様なリハビリテーションの提供によって、岩内町から積丹町にかけての広域にお住まいの高齢の方を支えています。訪問リハビリテーションは、岩内町のほか、共和町、泊村、神恵内村においても実施しており、地域の健康づくりのサポートとしては、神恵内村で月に1回介護予防教室を開催し、転倒予防などのため

の運動指導を行っています。また、積丹町では年に3回、介護予防事業として運動の個別指導やアドバイスをを行い、ご家族からの介護相談などにも応じています。ほかにも、泊村の地域ケア会議にリハビリスタッフに参加し、福祉サービスに関わる多職種と情報交換をしながら、より良い支援方法を考えています。

こうした活動は、地域貢献を果たすための取り組みでもあります。同施設の在宅サービス部門なども連携しながら、途切れることのないケアの実現をめざしています。



高齢の方々への運動指導などにより健康づくりをサポートしています

溪仁会グループ

在宅サービスの質の向上と連携を推進する 「在宅ささえるネットワーク拡大会議」

溪仁会グループでは、多様で質の高い在宅サービスを途切れることなく提供する体制をめざし、グループ内の連携推進に取り組んでいます。2023年には訪問看護部門の責任者などを対象に「在宅ささえるネットワーク会議」を発足させ、課題の共有や意見交換の場を設けました。2024年からは「在宅ささえるネットワーク拡大会議」を開催し、在宅サービスにかかわる職員を対象に、年3回、事例紹介や情報交

換を行う機会を提供しています。

2024年度は、初回到訪問看護ステーションの活動事例の紹介やグループワークを行い、施設間の理解を深めました。また、ACPや医療と介護のネットワークの必要性をテーマにした回もあり、在宅支援の場で必要な知識を学ぶ機会を設けています。質の高い在宅サービスを実現するため、こうした活動を通し、今後もグループ内の連携推進に取り組んでいきます。



グループ各施設の在宅サービスに関わる職員が参加する在宅ささえるネットワーク拡大会議

在宅事業グランドデザインの策定

在宅サービスの強化に向けてグループの指針を明らかに

高齢化の進展に伴い、在宅医療・介護のニーズが急増する中、地域で暮らす高齢の方を支えるために、在宅医療・介護が一体となった質の高いケアの提供体制が求められています。地域の保健・医療・介護・福祉を担う溪仁会グループでは、多様で質の高い在宅サービスを提供すると同時に、増え続けるニーズに対応できる体制を整えるため、2025年4月に「溪仁会グループ在宅事業グランドデザイン」を策定しました。

同グランドデザインでは、今後の医療や介護を取り巻く社会環境の変化、医療・介護政策などの展望、当グループの現状分析などを踏まえ、グループとしてめざすべき在宅サービスの姿を明示しました。ビジョンとして「地域における在宅医療・介護をリードする存在となること」「患者さん、利用者さん一人ひとりのニーズに合わせた質の高い在宅医療・介護サービスの提供」「ICTを活用した効率的で効果的な在宅医療・介護サービスの実現」を掲げています。また、その実現に向け「地域に根ざした在宅医療・介護推進体制の構築」「在宅医療・介

護に関する専門人材の育成と確保」「積極的なICTの活用」「経営基盤の強化」を挙げ、具体的な戦略を示しました。

同グランドデザインは、短期(1年)・中期(3年)・長期(5年以上)計画に分けて進めていく予定です。グループが一体となって実現に取り組む、多様なニーズに応えることができる在宅サービスの未来を築いていきます。

■ 溪仁会グループ在宅事業連携のイメージ





看護師特定行為研修

～開始から5年を経て見えてきた成果と課題、未来の姿～

在宅医療や医師の働き方改革の推進が求められる中、
一定の診療補助(特定行為)を担う看護師を育成し、
タイムリーかつ適切な医療の提供やタスクシェアリングを進めることを目的に、
2015年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されました。
医療法人涇仁会は、2020年から「看護師特定行為研修指定研修機関」として、
法人外からも広く研修者を受け入れ、特定行為を担う人財育成に取り組んでいます。
研修修了者とその支援を担当する職員が、現在の活動状況や課題などを共有し、
看護師特定行為研修の意義や今後への期待、
理想とする在り方について語り合いました。



手稲涇仁会病院
看護部主任 **神林 知子**

2020年度看護師特定行為研修術中麻酔領域パッケージ・コース受講。集中治療室の看護業務に携わりながら、研修受講者への指導なども担当。



定山溪病院
看護部 **高木 友博**

2022年度看護師特定行為研修在宅慢性期領域パッケージ・コース受講。病棟業務のほか、院内での研修受講者の実習指導や修了者の支援なども担当する。



深川市立病院
看護部部長 **藤原 智美氏**

2023年度看護師特定行為研修在宅慢性期領域パッケージ・コース受講。外来診療を受け持つほか、地域連携室に所属し地域活動にも携わる。



札幌西円山病院
看護介護部部長 **佐藤 京子**

2023年より札幌西円山病院看護師特定行為活動支援室副室長として、研修受講者へのサポートや修了後の活動支援、院内の環境整備などを行う。



司会

医療法人涇仁会
看護師特定行為研修センター
副センター長
桑村 直樹

「より質の高い看護を実践するために」 特定行為研修への期待と現在の活動

桑村 医療法人涇仁会が看護師特定行為研修(以下、特定行為研修)を開始して5年が経過しました。本日は、研修を修了した方の活動や研修をサポートする立場の方に意見交換をしていただき、看護師の特定行為をさらに発展させるための手掛かりにしたいと考えています。最初に、特定行為研修を受講した理由をお話してください。

神林 私はクリティカルケア^{*1}認定看護師として、手稲涇仁会病院の集中治療室で活動してきました。認定看護師の使命の一つに「水準の高い看護の実践」があり、特定行為研修の受講が使命を果たすことにつながると考えました。

藤原 私は皮膚・排泄ケア分野の認定看護師として活動してお

り、ケアの質を向上させるためにも特定行為研修を受けたいと考えていました。上司が後押しをしてくれたことに加え、医療法人涇仁会が他施設の看護師を受け入れていたことから受講を決めました。

高木 受講のきっかけは、上司からの「挑戦してみたら」という声掛けでした。研修内容が高度な上、業務との両立もしなければならず、最初は迷ったのですが、看護師としての能力の向上やキャリアアップにつながると思い、受講することにしました。

桑村 佐藤さんは研修受講者のサポートを担われています。どのような活動をされているのでしょうか。

佐藤 札幌西円山病院が特定行為研修受講者の育成と支援を目的に、2023年に設置した「看護師特定行為活動支援室」の副室長を務めています。支援室では、受講者と修了者が適切に活動できるよう、院内環境の整備や医師の業務のタスク・シフト/シェア

を推進しています。また、受講者と修了者が情報を共有し、学び合う機会として、月1回「特定行為ゼミナール」を開催しています。

桑村 修了者の皆さんは、特定行為研修での学びをどのように実践されていますか。

藤原 現在は、主に胃ろう^{※2}交換と気管カニューレ^{※3}の交換を行っています。また、壊死した組織の除去を行うこともあります。

高木 昨年から1カ月に2日、1病棟の胃ろう交換を担当しています。昨年度は123件の交換を行いました。特にトラブルはなく、順調に実施できています。

藤原 深川市立病院の場合、特定行為を安全に行うための「手順書」では、私が胃ろうなどを交換した後、医師が内視鏡で確認することになっています。定山溪病院ではどのように確認していますか。

高木 当病院の手順書では、胃ろう交換からファイバースコープでの確認まで、私が行うことになっています。これは、医師の業務のタスク・シフト／シェアを進めようという院内の理解や協力体制があるため、私は初めに医師からファイバースコープの使用について指導を受け、自分で確認できるようになりました。

藤原 私も医師から「サポートするのでやってみたら」と言われるのですが、まだ迷いがあります。私が確認までできるようになれば、患者さんにとっても医師にとってもメリットがあるので、今後は前向きに検討していこうと思います。

桑村 手順書の話が出ましたが、佐藤さん、札幌西円山病院ではどのように作成したのですか。

佐藤 当病院では、「特定行為ゼミナール」で医師と受講者が話し合いながら手順書を作成しました。それと同時に、実習を受け持つ医師の指導方法を統一するためのマニュアルも作りしました。これによって作業プロセスが明文化され、看護師が迷うことがなくなりました。マニュアル作成は、皆さんにもお勧めしたいです。

桑村 神林さんは、当法人が特定行為研修を開始して1期目に受講されていますが、集中治療室ではどのような業務を行っていますか。

神林 現在、集中治療室には私を含めて6名の修了者が所属しています。担当業務は橈骨動脈ラインの確保^{※4}や、人工呼吸器関連など多岐にわたります。

桑村 特定行為を実践する中で感じたことはありますか。

神林 特定行為の内容が注目されがちですが、現場では患者さんの状況を適切に分析する高いアセスメント能力が求められます。医師から信頼され、業務を安心して任せってもらうためにも、アセスメントを大切にするように心掛けています。



特定行為の実践を通して感じたやりがい 一方で情報共有や働き方が課題に

桑村 特定行為研修を受けて役に立ったことや、特定行為を実践する中で良かったと感じることは何ですか。

高木 トータルケアを行うために必要な能力を磨く機会になりました。患者さん全体を診るフィジカルアセスメントもそうですが、臨床推論^{※5}をする力が身に付き、看護師業務にとっても役に立っています。医師からは「もっといろいろなことができるように、これからも研修を受けて」と言われています。

神林 高木さんが言われたように、臨床推論を用いることで、例えば患者さんが脱水状態に陥る前に処置をしたり、痛みが出る前に薬剤を使うといった判断ができるようになりました。現場でも特定行為研修の修了者は頼もしい存在になっていますし、みんな受講して良かったと思っているのではないのでしょうか。

藤原 医師からは「とても助かる」という評価を受けています。「次は誰が研修を受けに行くの」と聞かれることもあり、期待されているのだと思います。また、胃ろうや気管カニューレについて「待たずに交換してもらえるとありがたい」「交換が上手」という患者さんの声を聞くと、自分が役に立っていることを実感できます。

佐藤 特定行為研修にかかわる中で感じたのが、特定行為を行う看護師は、医師と看護師の間にいる立場であり、どちらの思いも理解できる柔軟な思考が必要だということです。そうした新しい分野の人材育成にかかわれることはとても楽しいですし、受講者や修了者もやりがいを感じていると思います。

桑村 受講者の感想の中に、医学教育の一部を学んだことで、医師の指示の意味を理解して対応できるようになった、という声がありました。看護の知識や経験に加え、治療や診断についても学ぶことは、チーム医療を進める上で大きな意味があると思います。では、逆に課題だと感じていることはありますか。

佐藤 実は、「特定行為ゼミナール」を、2025年7月で一度終了することになりました。理由は、事例検討が主で自己研さんとしての性格が強く、業務時間内に開催することが難しいためです。今後どのように特定行為に関する情報を共有していくかが課題となっています。その仕組みづくりは、どの病院にとっても悩みどころではないのでしょうか。

※1 生命の危機的な状態(クリティカル期)にある重症の患者に対する看護・ケア

※2 口からの食事の摂取が困難な方に、腹部に小さな穴を開けて胃にチューブを挿入し、直接栄養を送る栄養補給法

※3 呼吸が困難な方の気道確保のため、気管を切開して気管に挿入する管のこと

※4 前腕にある太い動脈に、血圧測定や採血などを行うためのカテーテル(細い管)を留置すること

※5 患者さんの状況や訴えをもとに、どのような疾患が考えられるのか、どのような検査や治療を行えばいいのかを導き出していく思考プロセス

神林 当病院にも情報共有の場があればと思い、以前から提案しているのですが、特定行為研修を受講する看護師はリーダー層が多く、就業時間内に集まるのが難しいため実現できていません。安全対策を図る上で事例検討はとても重要ですし、今後修了者がさらに増えていったとき、その人たちを守るという意味でも振り返りや情報共有の場は必要だと感じています。

高木 当病院は修了者がまだ2名なので、必要に迫られてはいないのですが、今後、修了者が増えていったときは、事例検討などを行う場を設けなければいけないと考えています。

藤原 現在は当病院の修了者は私一人のため、必要に応じて、その場で医師と振り返りを行っています。一方で、ほかの修了者と特定行為に関する情報共有や事例検討ができないことが悩みになっています。

桑村 情報共有のほかに課題になっていることはありますか。

佐藤 修了者はどうしても業務量が増える傾向にあります。修了者の働き方も解決しなければならない課題だと思っています。

高木 私は、月に2日間行う胃ろう交換以外は、特定行為は行っていませんが、藤原さんや神林さんは患者さんの状況に応じてタイムリーに対応するので、負担が大きいのではないですか。

藤原 業務は増えますね。先日、後輩の看護師に「特定行為研修を修了して仕事が増えて、大変じゃないですか」と言われました。「学ぶことは楽しいよ」と答えたのですが、「忙しくて大変そう」と感じる人もいます。

神林 確かに業務量は増えますし、責任も重くなります。また、これは通常の看護業務なのか、特定行為なのかという思考の切り替えも必要です。高木さんのように特定行為を行う日が決まっていると、その業務に専念できるのでうらやましく思いますね。

高木 皆さんの話を聞くと、自分は恵まれていると感じます。

桑村 特定行為に関する情報共有の在り方や業務量の偏りの問



題は、今後、特定行為研修を続けていく上で大きな課題といえます。修了者が孤立せず、安心して特定行為を行っていくための支援をどうするか、指定研修機関として考えていきたいと思っています。

看護師による特定行為の意義を伝え 活躍の場を広げるために求められること

桑村 今後、看護師の特定行為をより良いものにしていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

高木 特定行為研修での学びは、安全性の確保や看護の質の向上を図る上でとても役に立ちました。特定行為に関心がある人たちが後押しするためにも、修了者の経験や思い、現在の活動などを伝える場があればいいのでは、と思っています。

藤原 本日の座談会は、皆さんとさまざまな情報を共有でき、とても有意義でした。修了者が特定行為に関する疑問や悩みなどを共有できる場があれば、当病院のような修了者が1名という施設であっても、安心して業務に臨めるのではないのでしょうか。また、医療法人深仁会のように他病院の職員を受け入れる研修施設が増えれば、地方の病院の看護師ももっと受講しやすくなると思います。

佐藤 修了者が現場で力をさらに発揮するには、看護師の特定行為に対する理解を促していく必要があります。札幌西円山病院では、研修開始前に、私が指導医一人ひとりに対し、特定行為実習の進め方、評価方法、実習への協力をお願いして回りました。また、ポスターや動画制作のほか、病室を受け持つ看護師を受講者のサポート担当にしたり、師長会議で特定行為の活動を発表したりするといった取り組みを行い、院内への周知と浸透を図っています。

神林 実践を通し、看護師の特定行為が組織内に浸透していくことが大切なのかもしれません。将来、どの看護師も特定行為を行えるようになれば、業務の偏りやタスク・シフト／シェアの問題も解消され





ますし、医療の質も向上していくと思います。

桑村 課題でも出ましたが、受講者や修了者が日常的に情報や悩みを共有したり、成果を実感できたりするようなネットワークづくりは、特に強化する必要があると考えています。また、情報発信についても積極的に取り組まなければいけないと感じました。

それでは最後に、今後の目標や看護師の特定行為研修制度に期待することなどをお話ください。

神林 当グループに限らず、特定行為研修を受講した人たちが思いの共有や情報発信ができるような取り組みを行っていけたら、と考えています。私たちに続く看護師が特定行為を楽しみ学び、やりがいをもって実践できるような環境を整え、みんなで支え合いながら前進していきたいと思っています。

藤原 私は今年度から訪問看護ステーションの活動にも関わっています。ご自宅でも気管カニューレなどの交換を行えるようになり、在宅で生活する患者さんを支えていきたいと考えています。私が特定行為を行う姿を見て「自分も研修を受けたい」と思う後輩が出てきてくれたらうれしいですね。

高木 今後、修了者の活動の場がより広がっていくことを期待します。そのためにも、自分が現場で実践していることを後輩に伝えたり、受講者の指導や修了者のサポートに携わったりしながら、特定行為の認知度をさらに高めていこうと思います。

佐藤 特定行為研修の受講者や修了者の活動を見ると、看護師が次の段階に進もうとしている頼もしさを感じます。また、今後はさらにステップアップを重ね、新たな看護師像を築いていくのだろうという期待感もあります。その活動をサポートするネットワークづくりの必要性をあらためて感じましたし、神林さんがおっしゃったように、当グループ以外の看護師とも、広く情報共有ができるような取り組みをし

ていきたいと思っています。

桑村 特定行為研修の修了者を「医師と看護師の橋渡しをする人」と表現することがあります。チーム医療を進める上で、看護の知識や経験に加え、治療や診断について学ぶ意義は大きく、今後はさらに看護師による特定行為のニーズが高まっていくはずですが、当法人もそこに貢献していきたいと考えています。

本日は、貴重なご意見をうかがい、看護師特定行為研修指定研修機関としての使命を再確認するとともに、新たな課題を見いだす機会になりました。皆さんの声は看護師特定行為研修の向上や修了者の支援に活かしてまいります。本日はありがとうございました。

※本ダイアログは2025年7月2日に医療法人 溪仁会法人本部において開催しました



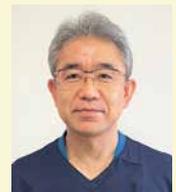
看護師特定行為研修協力病院からの期待と展望

当病院には現在、6名の特定行為看護師・特定認定看護師が在籍し、年間180件超の活動実績により医師とのタスクシェア推進、チーム医療の質の向上と効率化に貢献しています。

看護師特定行為研修修了者の存在によって、現場の対応が迅速になり、患者さんへさらにタイムリーで適切なケアの提供が可能になると感じます。また、看護師にとっては行為の技術的習得のみならず、病態の理解、患者さんやご家族への倫理的配慮、医療安全への関心の深化など、医療者として成長することもできます。現場で他の看護スタッフへの指導的役割を担うことが、キャリア形成

や専門職としての誇りと責任感を育む機会になると考えています。

今後は病院内にとどまらず、訪問看護にも活躍の場を広げてくれることを期待しています。そのためには、診療科ごとのニーズや業務負担の分析に基づく最適な配置を行うことや、教育・研修体制の充実、多職種連携の強化が必要となります。特定行為看護師をどの程度増員していくべきか、活動内容の評価・検討に取り組んだ上で、病院全体で「安全な特定行為の実施」を支援する仕組みを構築していきたいと思っています。



札幌西山山病院
院長
山田 陽

活動TOPICS

溪仁会グループは2020年11月に第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」を策定しました。

保健、医療、介護、福祉のサービスを提供する複合事業体として、

社会の高齢化がピークを迎える2040年を見据えた中で、

めざすべき目標を7つの項目にまとめ、さまざまな取り組みを進めてきました。

ここでは2024年度の活動を中心に、ビジョンに沿って行われたグループと各施設の取り組みについてご報告します。

■ビジョン溪仁会2025



※症状が急激に進行したり、長期間持続したりはしない疾患に対して医療を提供する機能を「サブアキュート」といいます。
また、主に急性期の治療を経過した患者さんや、それに対する医療機能として「ポストアキュート」という言葉もあります。

2024年度溪仁会グループ 経営基本方針

基本姿勢

『ビジョン溪仁会2025』の持続化

～ポストコロナにおける集患力の回復と最適なコスト構造改革～

重点項目

- ① 溪仁会ブランド力の向上～複合事業体としてのサービス確立～
- ② 適正利益の確保
- ③ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- ④ CSRの推進
- ⑤ VUCA*の時代を克服できる人財育成

※「先行きが見通せず、将来の予測が困難な状態」のことを、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取って「VUCA」といいます。不測の事態が巻き起こる現代の複雑な社会情勢を表した言葉です。

持続可能な未来をめざして Step Forward! SDGs

溪仁会グループでは、保健・医療・介護・福祉の事業や、組織・職員が行うさまざまな活動を通して、SDGsの達成に取り組んでいます。

続くページの活動TOPICSや施設別TOPICS&活動報告でご紹介する取り組みが、SDGsのどのゴールの達成に関わる活動なのか、SDGsアイコンで示しています。

複数のゴールにかかわる取り組みについては、関連の深さにかかわらず、番号順にアイコンを並べています。



SDGsとは?

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」は、2030年までに持続可能でより良い世界を実現することをめざす世界共通の目標です。人権や経済、社会、地球環境など、さまざまな分野にまたがった17のゴールと169のターゲットで構成されています。すべての人が、達成に向けて具体的なアクションを起こすことが求められています。



グループの活動 TOPICS

P20

溪仁会グループ全体の取り組みや施設横断的なプロジェクト、グループが重点を置く分野の各施設の活動をご報告します。

溪仁会グループの活動の数字

P32

溪仁会グループの活動にまつわるデータについて、特に重視し、指標としている項目のデータをご報告します。

施設別 TOPICS & 活動報告

P34

溪仁会グループの各施設・法人が、ビジョン溪仁会2025の達成に向けて重視し、指標としているデータと、2024年度に特に力を入れた活動についてご報告します。

回復期リハビリテーション病棟協会 第45回研究大会 in 札幌への取り組み



札幌溪仁会リハビリテーション病院

Challenge

医療の質をより高め、選ばれる
回復期リハビリテーション病院をめざす

Action

北海道で初の回復期リハビリテーション
病棟協会研究大会で幹事病院を務める

Next Step

大会での学びや経験を糧に前進し、
病院のブランド力向上に取り組む

回復期リハビリテーション病棟協会研究大会の開催

近年は、病気や事故などで急性期医療を受けたのちに、患者さんがまた自宅での生活を送ることができるようにその間をつなぐ回復期リハビリテーションの重要性がより高まっています。札幌溪仁会リハビリテーション病院は2017年の開院以来、質の高いリハビリテーションを提供し、在宅復帰をめざす患者さんを支えています。

同病院は2025年2月21・22日に開催された「回復期リハビリテーション病棟協会第45回研究大会 in 札幌」の幹事病院として、企画や開催準備、当日の運営などを担いました。大会長を務めた橋本茂樹院長は「同大会は全国から2,000名近くが参加する、回復期リハビリテーションでは最大の大会です。2020年に札幌で開催予定だった第35回大会がコロナ禍で直前に中止になったこともあり、北海道初となる今大会を何とせよ成功させると強い思いを持ち、職員が一体となって臨みました」と話します。

同大会開催の目的の一つが、厚生労働省の地域医療構想において回復期リハビリテーション病棟の増床が推進される中、いかに医療の質を維持し、患者さんから選ばれる病院になるかということでした。そこで、どんな時でもしっかり学び、胸を張って一步踏み出してほしいという願いを込め「Be ambitious! 学んで前へ」というテーマを掲げました。さらに、サブテーマを「'24年度同時改定を力に変えるために」とし、厳しさを増す診療報酬改定を共に乗り越えようというメッセージを伝えました。



注目を集めたユニフォーム
ファッションショー



大会長講演で自身の
経験や医療への思い
を話す橋本院長

大会での学びや経験を糧に選ばれる病院へ

同大会では、スキルアップに向けた実践的な内容や医療を取り巻く環境変化への対応、高齢者や障がい者とのかわりなど、幅広い内容をテーマにシンポジウムや講演が行われました。また、橋本院長は大会長講演で「Be ambitious! 一歩先へ プロボノ[※]・私のこれまでの地域活動」と題し、リハビリにかかわる者としての思いや在宅を支えるネットワークづくりの経験、プロボノとして力を注ぐ地域での共生社会づくりの活動などを紹介しました。

大会ではさまざまな催しがあり、その中でも初となった試みが「ユニフォームファッションショー」です。回復期リハビリテーション病棟は患者さんが自宅に戻るための場所であるため、「できるだけ在宅に近い環境で患者さんを支えていこう」という発想で開発されたデザインのユニフォームがステージで披露されました。また、特色あるユニフォームを採用している病院の紹介なども行いました。

橋本院長は「北海道の回復期リハビリテーションにかかわる病院が同じ志を持ち、力を結集してくれたおかげでこの大会は成功を収めることができました。参加者が大会で学んだことを実践し、より良い医療や選ばれる病院づくりに役立ててくれることが最大の成果だと考えています」と同大会を振り返ります。また、同病院が大会幹事病院を務めたことで、職員間の連携や医療への意識をより高める効果もありました。今回の経験を糧に、さらに質の高い医療に取り組むとともに、今後はその活動を積極的に外部に発信し、回復期リハビリテーション病院としてのブランド力向上をめざしています。

※職業で培った経験やスキルを活かした社会貢献活動のこと



札幌コンベンションセンターを会場に、2日間にわたり開催された同大会には、全国の病院から1,992名(道外1,602名・道内390名)が参加しました



札幌溪仁会
リハビリテーション病院
院長
橋本 茂樹

えんげ 訪問嚥下診療の取り組み



定山溪病院

Challenge

ご自宅で暮らす方の
食べる・飲み込む機能の診療に対応

Action

歯科医師・言語聴覚士による
訪問嚥下診療と嚥下内視鏡検査を開始

Next Step

情報発信の強化で訪問嚥下診療の
認知度を高め、潜在ニーズを掘り起こす

在宅の方の「食べること」を支えたい

定山溪病院は、口の健康管理の重要性に着目し、患者さんの口腔ケアの向上に取り組んできました。2024年5月には多職種が連携し、口腔ケアと食べること(摂食)・飲み込むこと(嚥下)をトータルで支援する「摂食嚥下・口腔機能サポートチーム(SOST)」を立ち上げ、専門性の高いケアを提供しています。

同チームは立ち上げと同時に訪問嚥下診療も開始しました。岡田和隆歯科診療部部長は「食べ物が飲み込みにくいなど、摂食嚥下機能に問題を抱える高齢の方は多いのですが、そのことが見落とされやすく、以前から課題だと感じていました。生活の場を訪問し、食事の状況なども確認することで、より適切な医療やリハビリが提供できると考えました」と説明します。

訪問嚥下診療では歯科医師と言語聴覚士が、ご自宅や入居している施設にうかがいます。現在は毎週木曜日に実施し、1日7、8名の方を診察しています。ケアマネジャーからの紹介が中心ですが、中には情報を検索して同チームにたどり着く患者さんもいるといいます。

訪問嚥下診療では口の中の状況の確認や相談対応などを行い、必要があれば「嚥下内視鏡検査」を行います。この検査は、鼻から内視鏡を入れた状態で、普段の食事を食べてもらい、喉の動きを観察するもので、その場で画像を見ながら検査結果を説明できるのが特長です。結果に応じて食事や姿勢の指導などを行うほか、継続的な治療や訪問リハビリにつなぐ場合もあります。言語療法科の谷領科長代理は「機能の向上だけをめざすのではなく、その方の目標や思いも共有しながら、環境調整やリハビリを提供することを大切にしています」と話します。



訪問嚥下診療では、ご自宅で内視鏡を使った検査も行います



特別養護老人ホームやグループホームなどでの活動にも注力しています

積極的な働きかけで活動の場を広げる

訪問嚥下診療の実施件数は徐々に増え、2025年3月末までに延べで200件以上となりました。高齢者施設に入居している方が約6割と多く、そのほかに病院やクリニックからの依頼もあります。岡田部長は「これまで訪問嚥下診療はほぼ知られていなかったのですが、こちらからの働きかけでニーズを掘り起こせることがわかりました」と言います。また、言語療法科の佐藤美歩副主任は「看取り期を迎えても、適切なサポートによって最期まで口から食べることであった方もいました。ご家族や施設の職員の方の認識も変わりつつあり、嚥下障害や誤嚥などの危険性に早期に気づき、ご連絡をいただくことが増えています」と活動への手応えを語ります。

一方で、訪問嚥下診療の範囲が病院から原則半径16km以内と定められているため、すべてのニーズに応えられないことや、摂食嚥下への理解がまだ低いことなど、新たな課題も見えてきました。今後は気軽に利用してもらうための働きかけの強化や活動成果の積極的な発信、溪仁会グループのネットワークを活用したサービス提供方法の検討などによって、「一人でも多くの方の食べること(摂食)や飲み込むこと(嚥下)を支えていきたい」と3人は目標を語ります。安心して、楽しく食事をしていただくために、摂食嚥下や口腔機能へのサポートをさらに広げていきます。



定山溪病院
歯科診療部 部長
岡田 和隆



定山溪病院
言語療法科 科長代理
谷 領



定山溪病院
言語療法科 副主任
佐藤 美歩

訪問嚥下診療の実績(2024年5月~2025年3月)





栄養・口腔ケアの取り組み

コミュニティホーム八雲

Challenge

利用者さんの状況に合わせた適切な栄養管理と口腔ケアの強化を図る

Action

管理栄養士2名、言語聴覚士2名、歯科衛生士3名が栄養・口腔ケアを提供

Next Step

他職種とも連携し、より質の高い栄養・口腔ケアの実現をめざす

利用者さんの栄養・嚥下をサポート

高齢の方が自立した生活を営む上で重要になるのが、適切な栄養管理や口腔管理です。コミュニティホーム八雲では、多職種が連携し、充実した栄養・口腔ケアを提供しています。

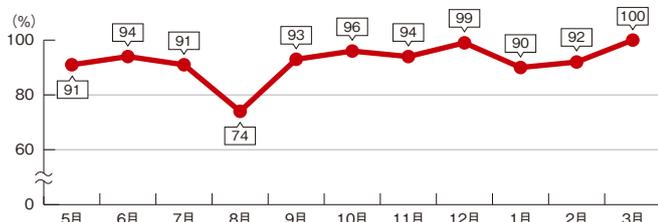
同施設では管理栄養士と言語聴覚士が昼食時にミールラウンド(食事観察)を実施し、利用者さんの食事の摂取状況の把握や嚥下機能の評価などを行っています。栄養管理課の今野裕美課長代理は「当施設では、利用者さんの低栄養状態を防ぐ取り組みに注力してきました。現在はミールラウンドのほか、看護・介護スタッフとケアマネジャーを交えて『食事の検討会』を月に1回開催し、利用者さんの栄養状況の改善を図っています。多職種が連携し、最適な栄養ケアを提供できるのが当施設の強みです」と話します。多様な利用者さん一人ひとりの身体状況や好みに合わせて食形態の見直しも随時行い、少しでも食べることを楽しみながら効率的に栄養を取れるように工夫しています。

食事をしていただく上では、嚥下機能の改善も大切な要素です。菅原早李言語聴覚士は、利用者さんの飲み込みの状態などを確認し、状況に応じてリハビリや指導を行っています。「利用者さん本人やご家族の思いもくみ取りながら、ご自宅でも安全に食事をしていただくための指導やアドバイスを心掛けています」と、退所後の生活を見据えた支援の大切さを話します。



ミールラウンドでは管理栄養士と言語聴覚士が利用者さんの食事の状況を確認します。すべての利用者さんに歯科衛生士が歯のブラッシングなどを行い、口の中をチェックします。

■ 口腔衛生管理加算算定推移 (2024年5月～2025年3月)



誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みを推進

利用者さんの栄養面の改善を進めると同時に、同施設では2020年に「肺炎減少プロジェクト」を立ち上げ、肺炎の発症や重症化を防ぐ取り組みを開始しました。その一つが、高齢者の肺炎の多くを占める誤嚥性肺炎の対策でした。

誤嚥性肺炎は、嚥下機能の低下によって口の中の細菌や食べ残しが気管に入り発症します。予防には適切な口腔ケアが必要なことから、同施設では2021年より歯科衛生士を採用し、現在は3名体制で食後の歯のブラッシングや口腔内のチェックなどを行っています。齋藤真弓歯科衛生士は「誤嚥性肺炎は舌の汚れが原因になることもあるため、特に舌磨きを大切にしています」と話します。同施設の口腔ケアの実績は非常に高く、月2回以上のケアを、ほぼ9割以上の利用者さんに実施しています。

きめ細かな口腔ケアの導入によって誤嚥が減り、2024年には肺炎の発症数が大きく減少しました。菅原言語聴覚士は「他職種間でも口腔ケアの話題が増えています。これを機に嚥下や口腔のケアをさらに向上できれば」と期待を寄せます。また、齋藤歯科衛生士も「介護スタッフからブラッシング方法の相談を受けるなど、施設全体で口腔ケアへの意識が高まっているのを感じます」と話します。

「今後はさらに多くの職種との連携を深め、それぞれの専門性を発揮してもらいながら、より良いケアを実現したい」と語る今野課長代理。これからも複合的な栄養・口腔ケアの提供によって、利用者さんを支えるためのより良い体制の構築をめざしています。



コミュニティホーム八雲
栄養管理課 課長代理
管理栄養士
今野 裕美



コミュニティホーム八雲
リハビリテーション課
言語聴覚士
菅原 早李



コミュニティホーム八雲
リハビリテーション課
歯科衛生士
齋藤 真弓

■ 肺炎・誤嚥性肺炎発症数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人数	12名	16名	9名	14名	7名

25周年を迎えた手稲溪仁会病院臨床研修の取り組み



手稲溪仁会病院

Challenge

広い視野と挑戦心を持つ
医師の育成

Action

国際性と協働を重視した
研修環境を整備

Next Step

時代や環境の変化に対応する
研修を追求

挑戦し続ける医師を育む国際的な研修拠点

手稲溪仁会病院では、1997年に厚生労働省から臨床研修指定病院の認定を受け、1999年には初期研修医として第1期生を迎えました。2024年度までの25年間で累計351名が手稲溪仁会病院の臨床研修プログラムを修了しています。

星哲哉臨床研修部部長は、「当病院では『挑戦し続ける医師』になる』を研修理念に掲げ、対話を重視した実践的な教育体制を整えています。常に向上心を持って学び、柔軟な視野と人間性を備えた医師を育てたいという思いからこの理念を定めました」と説明します。

日々の研修では、上級医からのレクチャーや症例の振り返りを行う「モーニングレポート」、先輩から後輩へと教え学び合う「屋根瓦式教育」などを通じて、臨床現場で必要な知識・技術を育てています。

最大の特長は、世界に通用する医師を育てるプログラムを提供していることです。英語教育プログラムでは海外から医師を招き、英語による講義や臨床現場でのレクチャー、プレゼンテーションなどを通じた人材育成を行っています。アメリカのケースウエスタンリザーブ大学、テキサス大学の2校と提携を結んでおり、基本的に月に1度、2大学の中から選出された外国人医師が来日し、初期研修医の指導にあたります。「相互理解」をコンセプトに、医学という共通の基盤を持ちながら異文化交流を経験することで、多様性の中で認め合いながら協働する医療の在り方を学ぶことができます。

2024年からは、研修医が1カ月間、テキサス大学へ留学できる制度も開始しました。日本国内でこうした留学制度のある臨床研修病院はまだ少なく、貴重な経験を積むことができる機会となっています。

研修医の採用においても多様性を重視し、日本国内はもとより海外からも広く人材を受け入れており、互いに刺激を与え合いながら成長する環境がつくられています。星部長は、「研修医たちは皆、自主性と積極性にあふれており、海外の大学との連携や研修の質が保たれているのは、彼らの力が非常に大きいと感じています。医師としてのかわりにとどまらず、退職後には一緒に遊びに出かけたり、外国人医師の誕生日や結婚記念日にサプライズパーティーを開いたりしているそうです。さらに、外国人研修医のために日本人研修医が、電車の乗り方やおすすめのレストランを紹介する英語のガイドブックを自主的に作成してくれるなど、温かな交流が自然と広がっています」と話します。

25周年記念式典を開催

2024年11月9日には、25周年記念式典（講演会・祝賀会）を開催しました。OBや当時の指導医ら約90名が集い、当時の思い出や現在の活動について語り合いました。星部長は、「祝賀会では『手稲溪仁会病院で初期研修を受けて本当によかった』『かけがえのない同期と出会えた』と多くの方から言ってもらい、教育に携わる者として大きなやりがいを感じました」と語ります。

時代の変化や共に働く仲間たちの思いを受け止めながら、常に進化し続ける研修を提供すべく、臨床研修部はこれからも活動を続けていきます。



総合内科 主任部長
臨床研修部 部長

星 哲哉



外国人医師によるモーニングレポートの様子

25周年記念祝賀会の様子



認知症への取り組み

■ 認知症ケアリーダー育成のための取り組みを開始

社会福祉法人 溪仁会

Challenge

チームで認知症ケアに取り組むためのリーダーを育成

Action

認知症ケア学会やリーダー研修会でノウハウを学ぶ

Next Step

段階的にリーダーを増やし地域の福祉に貢献

2024年1月に施行された認知症基本法では、認知症の人を含めた一人ひとりが個性と能力を十分に発揮し、尊重し合い支え合いながら共生する、活力ある社会の実現を推進しています。社会福祉法人 溪仁会では認知症ケアの質向上のために、多職種合同研修会の開催など、知見を深めるためのさまざまな取り組みを進めてきました。

2024年度からは、認知症ケア専門研修で得た学びを実践につなげるため、「認知症ケアリーダー」を施設ごとに選出し、育成を行っています。同年7月から開始した「認知症ケアリーダー会議」では、リーダーの役割を明確にすることでチームとして認知症ケアに取り組めるよう、認知症ケアの知識・技術の習得や、日頃の態度の振り返りなどを実施。また、パーソン・センタード・ケア[※]に関する研修会や日本認知症ケア学会への参加、他法人の取り組みを学ぶための施設見学も行いました。

同法人ではこうした活動を通して、職員が認知症ケアについてチームで相談し合う環境づくりを進めています。今後も段階的にリーダーを増やし、いずれは地域の共生社会の実現に寄与する役割を担えるような人財の育成をめざします。

[※]認知症をもつ人を一人の「人」として尊重し、その人の立場に立って行う認知症ケアの考え方のこと



■ 認知症の方やご家族を招いての「スマイルカフェ」の開催

札幌西円山病院

Challenge

職員間でノウハウを引き継ぎ、地域に求められるカフェ運営を実施する

Action

地域ニーズの発掘と開催形式の変更

Next Step

当事者やご家族、地域住民と共により開かれたカフェ運営をめざす

認知症の方やそのご家族は、情報やサポートの不足により、社会的に孤立感を深めてしまうことがあります。認知症カフェは、認知症をテーマに集うことができる場所をつくることで、地域社会の認知症への理解を高めるとともに、当事者の孤立を防ぎ、専門職やサービスなどのつながりの早期構築をめざす取り組みです。

札幌西円山病院では、認知症の普及啓発をめざした「スマイルカフェ」を2014年から開催しています。コロナ禍での一時的な中止期間はあったものの、この取り組みは開始から10年目を迎えました。

同カフェのプログラムは講話と交流・相談会を組み合わせ構成しており、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士からなる多職種チームで開催しています。講話の内容や交流・相談会での情報提供・相談対応も幅広い内容で実施しており、毎回20名前後の方にご参加いただく中で、当事者のご家族が介護上の悩みや思いを共有することが

できる場となっています。また、地域住民、認知症にかかわる専門職の方や学生などにも参加していただき、参加者同士の交流を通じて有意義な情報交換が進んだほか、関係機関や専門職との連携促進にもつながっています。

今後も参加者全員が楽しみながら学べる内容を検討して開催を続け、認知症になっても安心して住み続けられる地域づくりに貢献していきます。



■ 2024年度スマイルカフェ開催内容

2024年6月29日	ACP(人生会議)について、考えたことがありますか？ ～自分の事や自分にとって大切な事を伝えてみよう～
2024年8月31日	理学療法士が伝える腰痛クイズ～みんなで腰痛体操～
2024年11月9日	絵を見ながら楽しくしゃべりましょう！アートリップで豊かな心を！
2025年3月20日	心も身体もリフレッシュ！～音楽療法を体験しましょう！～

医療と介護の連携による ポリファーマシーの取り組み



医療法人溪仁会、社会福祉法人溪仁会、コミュニティホーム白石

Challenge

患者さんの薬剤トラブル防止と
職員の負担軽減

Action

薬剤師・医師・介護職が連携し
服薬簡素化を推進

Next Step

他施設や特別養護老人ホームにも
取り組みを広げる

近年、高齢化が進む中で、ポリファーマシー対策への意識が高まっています。ポリファーマシーとは、複数の薬の服用によって副作用や飲み間違いなどの有害事象が起こることを指します。特に高齢者施設の利用者さんはたくさんの薬を併用している方が多く、健康と安全を守る上で重要なテーマの一つになっています。

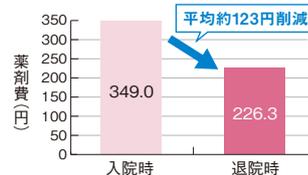
溪仁会グループでは現在、施設でのポリファーマシーの解消に向けて、組織を横断した取り組みを行っています。2024年8月からはコミュニティホーム白石をモデルに、医療の視点を取り入れた多職種連携体制で服薬簡素化に向けた取り組みを始めました。期間中の新規入所申し込み者53名を対象に、医療法人溪仁会法人本部薬事管理室の薬剤師が病状・病態に応じた処方プランを

提案し、施設の医師が減薬や用法の変更を行いました。これにより、1人当たり平均2.3剤の削減を達成し、誤薬の防止や現場主導の処方見直しの定着につながったほか、全体で月額約20万円の薬剤費抑制ともなりました。今後はグループ内の他施設への取り組みの展開も検討しています。

患者さん1人当たりの
内服薬剤数(平均)の変化



患者さん1人当たりの
内服1日薬価(平均)の変化



臨床倫理への取り組み



札幌西円山病院、定山溪病院

Challenge

臨床現場での
倫理的課題に向き合う体制づくり

Action

倫理的課題に対する
支援チームの発足や研修の実施

Next Step

活動の定着・教育を推進し
医療の質向上をめざす

医療技術の進歩に伴う治療の選択肢の増加や、価値観の多様化などにより、患者さんの意思をより尊重したサービス提供が求められるようになりました。延命治療の選択や、本人の意思確認が難しい場合の判断など、臨床現場で生じるさまざまな課題を倫理的な視点から検討する「臨床倫理」が重要となり、溪仁会グループの各施設でもこれに関する取り組みを進めています。

●札幌西円山病院

札幌西円山病院は、職員の倫理的ジレンマを軽減し、患者さん・ご家族と向き合う際の支えとなる体制を整えるため「臨床倫理宣言」を發しました。2024年9月には倫理的課題への相談・支援の主体となる「りんりんサポートチーム」を發足し、倫理カンファレンスや助言を行っています。2025年5月からは院内ラウンドも開始し、2025年6月時点で20件の相談に対応しました。

2025年1月には、日本臨床倫理学会の上級臨床倫理認定士制度に基づく臨床倫理登録病院として認定されました。今後は活動のさらなる定着と倫理教育の推進に努めていきます。



●定山溪病院

患者さんや利用者さんとかかわりの中で、倫理的な課題はいくつも存在しています。定山溪病院では、職員一人ひとりが倫理的課題に気付き、患者さんの意思を尊重し、尊厳を守り最善のサービス提供が行えるよう、多職種での臨床倫理研修を実施しています。

2024年10月9日に実施した研修会には医師、看護師など15名が参加し、事例をもとに意見交換を行いました。アンケートでは、「現場での倫理的課題の気付きに役立つ」「他職種の意見を知ることができた」など前向きな声が上がっており、これからも継続して研修を開催していく予定です。





地域活動の取り組み

■地域コミュニティ「石山大学」との連携を開始

定山溪病院

Challenge

地域社会の活性化や維持のため、住民一人ひとりの健康を支援

Action

コミュニティへ出向き健康講話を行う地域連携を開始

Next Step

病院・地域双方にとって実りある関係を育んでいく

まちの元気は、地域に暮らす住民の皆さんによって育まれます。中でも、高齢者の方々が持つ知恵や経験、スキルは、地域社会にとってかけがえのない財産であり、地域課題の解決や活性化に欠かせない存在です。

札幌市南区は、市内でも特に高齢化率が高く、社会的フレイルを防ぐためにも、コミュニティの形成や活動の継続は重要な課題といえます。こうした背景から、定山溪病院では院内にとどまらず、地域全体の健康づくりに貢献することをめざし、2024年2月より「石山大学」との連携を開始しました。石山大学は、2020年に有志の呼びかけで開校した、南区石山地区に住む65歳以上の男性のみが入学できる学びの場です。

同病院では数カ月に一度、医師や歯科医師、看護師のほか、管理栄養士や言語聴覚士などさまざまなコメディカルが石山大学へ

出向き、体操・クイズなどを交えながら、健康・医療・福祉に関する講話を行っています。講話には、毎回20名弱の学生が参加し、「有意義で面白かった。今後も期待している」「家族や知人にも伝える」と満足度の高さをうかがえる感想をいただいています。地域住民の意見をうかがえる貴重な機会となるだけでなく、溪仁会グループや定山溪病院の周知にもつながりました。

この活動を通じて、学生が同病院の病院祭に出店したり、病院でのデータ収集に協力していただいたりなど、双方向での連携も進んでいます。今後もこうした活動を通して、相互に良い影響を生み出せるような関係づくりに取り組んでいきます。

認知症予防と楽しく行える脳トレについての講話の様子



■「介護の仕事フェスティバル2024」に参加

西円山敬樹園、コミュニティホーム白石、グループホーム西円山の丘

Challenge

介護職の役割や魅力を地域に伝える

Action

道が行う普及啓発事業に参加

Next Step

地域の理解促進に継続的に取り組む

高齢化が進む中で介護職の重要性は増している一方、一般の方に対する病院や施設からの情報・魅力の発信は、まだ十分とはいえない部分もあります。社会福祉法人溪仁会では、地域の方々の介護の仕事への理解を深めるために、イベントや広報活動を通じた情報発信に積極的に取り組んでいます。

2024年には、北海道の「介護のしごと普及啓発事業」から依頼を受け、西円山敬樹園、コミュニティホーム白石、グループホーム西円山の丘の職員3名が同事業に参加しました。3名はポスター、テレビCM、SNS用動画の撮影に加え、9月22日にさっぽろ創世スクエアにて行われたイベント「介護の仕事フェスティバル2024」にも登壇。イベントにはお笑い芸人のみやぞんさんなども参加し、介護の仕事の本音や魅力を語るトークセッションを行いました。イベントは満員御礼での開催となり、テレビやSNSを通じて広く発信されたことで、これまで接点をなかなか作れなかった方々にも介護の魅

力や日々のやりがいを伝えることができました。参加した職員・施設からも、「日々の努力に光が当たるような貴重な機会となった。楽しかった」という声が上がっており、2025年度開催の同イベントにも参加予定です。

社会福祉法人溪仁会では今後も、地域とのつながりを大切にしなが、介護の仕事の魅力を発信し続けていきます。



■カフェキャラバン「Welcome THANKS DAY」を開催

札幌西円山病院

Challenge

病院にかかわるすべての人に
癒やしのひとときを提供

Action

移動式カフェ屋台で
コーヒーを無料配布

Next Step

継続実施し、施設内や地域との
つながりを強化していく

病院は、患者さんや職員だけでなく、そのご家族や地域の方々など、さまざまな人が集う場所です。札幌西円山病院では、病院で過ごすすべての人にひとときの安らぎを届け、笑顔が生まれる場をつくろうという思いから、コーヒーを無料で振る舞う「カフェキャラバン『Welcome THANKS DAY』』という取り組みを2024年から行っています。

開催日には、同病院ボランティアサークル「銀の舟」のメンバー、カムヒル西円山の入居者さんが、病院の広報や地域活動に取り組む「つながる地域サポート部」のスタッフと共に、総合受付前で、車いすを改造して作った移動式のカフェ屋台を利用して、地元の珈琲店の焙煎豆を使ったコーヒーを振る舞いました。また総合受付前まで来られない患者さんにもコーヒーを楽しんでもらえるよう、病棟スタッフとも連携し、病室への提供も行っています。

2024年度には、4月22日～24日、10月28日～30日、12月24日～25日、2月17日～19日に開催し、合計2,400杯以上を提供しました。患者さんからは「病院の中でおいしいコーヒーを飲めてうれしい」と好評で、このイベントを通じて職員と患者さん・ご家族との温かな交流や、職員同士のコミュニケーションも生まれています。参加したボ

ランティアの方や入居者さんからも、「誰かの役に立つことができた」と前向きな感想をいただきました。また2月の開催時には、焙煎豆の仕入れ先である珈琲店のマスターもボランティアとして参加されるなど、地域とのつながりがさらに広がりを見せています。

同病院では今後もこの活動を続けることで、病院にかかわるすべての人がつながりを感じられる場として育てていく予定です。



参加者はおそろいのエプロンを着用するなど、雰囲気づくりにも注力しました

北海道の医療・福祉分野で初となる「DX認定」を取得



医療法人 溪仁会

Challenge

競争力強化や企業価値の向上のため
DX推進を加速化

Action

国の認定である
「DX認定」取得に向け取り組む

Next Step

社会医療法人 溪仁会の
同認定の取得をめざす

各業界でDX(Digital Transformation)が進展する中、医療・福祉の現場においても、デジタル技術を活用したサービスの質の向上や業務の効率化が喫緊の課題となっています。

溪仁会グループでは2021年からDX推進に積極的に取り組んでおり、2024年11月1日には医療法人 溪仁会が経済産業省による「DX認定制度」においてDX認定事業者の認定を取得しました。この制度は、国が企業のDX推進を促すために創設したもので、同省が定めた「ガバナンス・コード」に基づき、DX推進の準備が整っ

ている事業者を認定します。全国的に医療分野での取得実績は少なく、医療・福祉分野では北海道で第一号の取得となりました。

今後は認定取得によるメリットを最大限活用できるよう情報収集を行うとともに、社会福祉法人 溪仁会でも同認定の取得をめざしています。



個人と組織一体での成長をめざす 溪仁会グループ職員研修



溪仁会グループ

Challenge

VUCAの時代を克服できる
人財の育成

Action

より実践的・体系的な
教育研修プログラムを提供

Next Step

効果測定を活かした
教育研修プログラムを構築

ビジョン 溪仁会2025の達成に向けて、大きなテーマの一つとなったのが「VUCAの時代を克服できる人財の育成」でした。個人は能力を高めてキャリアアップをめざすこと、組織は多様な人財が活躍できる場をつくることで成長します。個人と組織がベクトルの合った成長を続けることで、ワークエンゲージメント、生産性の向上、イノベーションの創出へとつなげることができます。

溪仁会グループで実施する体系的な研修についても、自律型人財を育成し、組織の成長に必要な技能・スキルを学べる内容へとブラッシュアップを進めてきました。プログラムは各職場のOJTを支援するために、アクションラーニングを取り入れた内容としています。また、2024年度に制定された溪仁会DXグランドデザインを受け、DX推進による効果を得るための研修として、「DXに活かせるExcel研修」を企画しました。そのほか医療法人 溪仁会では、面談などで導き出した個人目標達成やキャリア形成に研修を活用する仕組みをつくりました。

研修の振り返りの機会として、2024年度からは受講1カ月後にアンケートを実施。「学んだことが現場で活かされている」との声が多く、上司からのフォローがある職場ではより高い研修効果が得られていることがわかりました。一部の研修では5年間の研修効果測定として受講者の上司にアンケートを行ったところ、受講者の現場での行動変容がみられ、研修内容が活用されているという声が多く上がりました。

今後はこれらの調査結果を活かし、職員に求められる内容・形式かつ、地域社会に貢献できる人財の育成を図るための教育研修プログラムを構築していきます。



第36回 溪仁会グループ研究発表会を開催



溪仁会グループ

Challenge

日頃の研究成果やノウハウを
グループ全体で共有

Action

職種・職場を越えて交流し
高め合える場を提供

Next Step

開催方法なども検討しながら
組織全体の強化を図る

溪仁会グループでは、保健・医療・介護・福祉の質を追求し、より良いサービスへと進化させていくための学びと挑戦の場として、1989年から「溪仁会グループ研究発表会」を開催しています。

コロナ禍に対応して2022年度からは会場開催とWeb配信を併用するハイブリッド方式を導入しました。2024年度の第36回では、主会場となった溪仁会ビルに、全80演題の中から選出された優秀演題18題の発表者と参加希望者120名が集い、発表と質疑応答を行いました。その後、溪仁会グループ最高責任者の成田吉明理事長から「溪仁会DX(Digital Transformation)グランドデザイン」の題で事業報告がありました。

なお次年度は、すべての演題を会場で直接発表する方式となる予定です。フォーラムシステムは引き続き運用し、Web上での演題

視聴や質疑応答を通じて、当日発表を聴講できない職員の研さんの機会も担保しています。

研究発表会は、学会発表への準備の場であるとともに、職員同士の情報交換・交流を促進し、グループでの一体感を醸成する場ともなります。今後もより良い開催方法や運用のための工夫を重ねながら、継続的な学びの場の提供に取り組んでいきます。





職員への多面的な健康支援で 組織の活力向上をめざす

溪仁会健康保険組合

Challenge

職員が長く健康に働き続けられるよう
福利厚生の実質を図る

Action

健診補助やスポーツを通じた
健康増進の取り組みを実施

Next Step

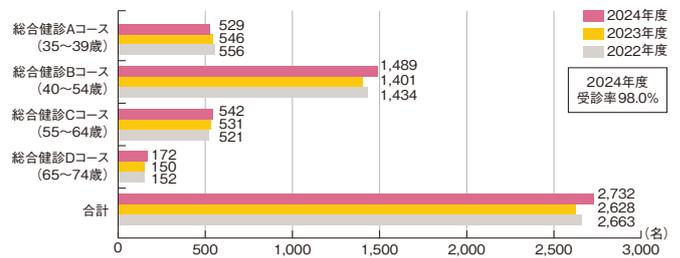
啓発活動や交流の場づくりを通して
健やかな組織づくりを推進

溪仁会健康保険組合(以下、健保組合)には、グループ全職員とご家族6,749名が加入しています(2025年3月末現在)。毎年度、さまざまな健診や健康増進サービス、啓発活動を行い、加入者の健康づくりをサポートしています。

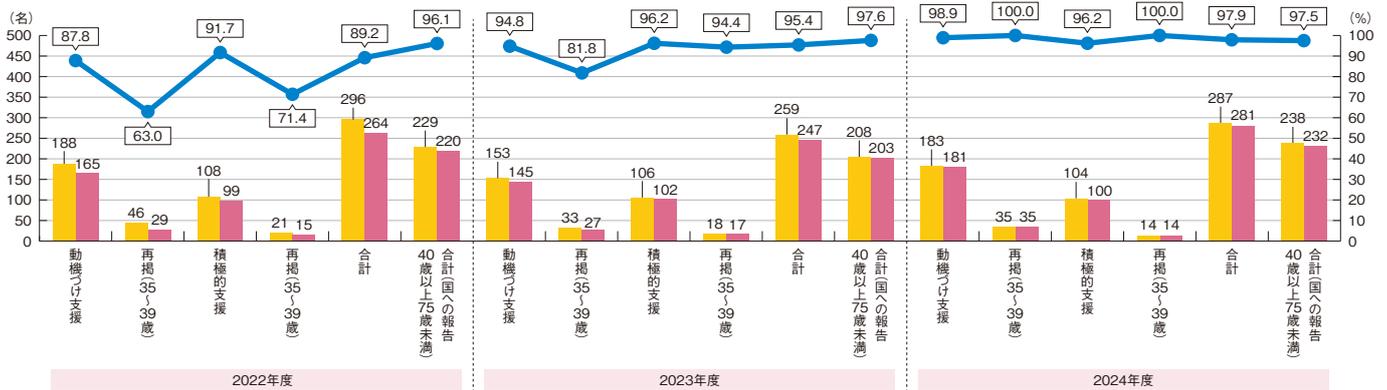
2018年度からは、健康診断の質の向上と職員の健康管理体制の向上をめざし「溪仁会グループ職員総合健診」を実施。健診結果にメタボリックシンドロームのリスクがみられた対象者には特定保健指導などの支援を行っており、2023年度には実施率97.6%を達成し、厚生労働省から3年連続で表彰を受けました。

今後は溪仁会円山クリニックでの受診が困難な職員に対しても提供可能な健診の仕組みを構築していく予定です。

被保険者(35歳~75歳未満)の健保補助を利用した年度別健診実績



特定保健指導(35歳~75歳未満の加入者)の実施状況



※2025年8月現在の数値(国への報告は2025年10月末)

溪仁会グループソフトボール大会を開催

健保組合では、職員の健康増進を図ることを目的にスポーツを通じた活動も行っており、そうしたイベントが職場の垣根を越えた職員間の交流にもつながっています。溪仁会健康保険組合体育奨励事業の一環であるソフトボール大会は、新型コロナウイルス感染症の影響による開催中止を乗り越え、2024年から名称を「理事長杯溪仁会グループソフトボール大会」と一新して10月14日に再開しました。当日は、札幌市西区のワンダーランドサッポロに医療法人、社会福祉法人の各施設から全9チーム・総勢135名が集結し、リーグ戦形式で試合を行いました。試合終了後の懇親会は、部署や職種をまたいだ親睦の場となり、「次年度もぜひ開催してほしい」との声が集まっています。今後もこうした取り組みを実施し、たくさんの職員に参加してもらうことで健康増進に寄与していきます。



青空の下、笑顔あふれる熱戦が繰り広げられました



圧倒的な打撃力で優勝を収めた札幌溪仁会リハビリテーション病院「堀内バスターズ」



みんなが無事に走れるように 北海道マラソンをサポート

〔手稲溪仁会病院、
札幌溪仁会リハビリテーション病院〕

札幌の夏の風物詩となった北海道マラソン。ランナーたちの中には、熱中症をはじめさまざまな体調不良を起こす方もいます。ランナーが安心して走れるよう、コースの5kmごとに設けられた救護所では、例年、手稲溪仁会病院と札幌溪仁会リハビリテーション病院の職員がボランティア救護スタッフとして活躍しています。

病院屋上にかわいい笑顔が満開 「ひだまり湯」に子どもたちが来訪

〔定山溪病院〕

定山溪病院は、屋上足湯「ひだまり湯」のオープン以来、温泉をキーワードにした地域交流を進めてきました。2024年8月からはひだまり湯を一般開放し、地域の方々にもご利用いただいています。2025年6月6日には、澄川まんまる保育園と札幌市南区子育て支援センターちあふる・みなみの園児たちがひだまり湯に来訪。定山溪温泉PR隊長「かっぱん」のぬいぐるみと並んで、足湯を楽しんでくれました。



みんなで足湯
楽しいな♪



夏野菜カレーに舌鼓♪ 「おばあちゃん食堂」をオープン 〔カームヒル西円山、医療法人稲生会〕

2024年6月26日、カームヒル西円山の入居者さんが腕を振るい、職員に料理を振る舞うイベント「おばあちゃん食堂」を、医療法人稲生会で行いました。カームヒル西円山が入居者さんの自立支援として行う地域活動の一環で、グループ連携により実現しました。当日調理を担当した入居者さんからは「みんなで調理するのが楽しかった」「おいしいと言われてもらえてうれしかった」などの感想のほか、次回開催を期待する声もいただきました。



ワンちゃんと一緒ににっこり
「犬とのふれあい」を開始
[コミュニティホーム美唄]

動物とのコミュニケーションは、楽しみや生きがいをもたらす、ストレス緩和や精神的な落ち着きにもつながります。コミュニティホーム美唄では2024年11月14日に、職員の飼い犬と利用者さんの交流を図る取り組み「犬とのふれあい」を開催。2025年5月24日には第2回を実施し、20名がミニチュアダックスフンドの「ハル」「ナツ」と1時間触れ合いました。好評につき、今後も開催を続ける予定です。



毎日来てほしい
くらいかわいい!



部活動に励む地域の子どもたちを
利用者さんがボール磨きで応援
[るすつ銀河の杜]

るすつ銀河の杜では、近隣の学校と相談し、デイサービスの利用者さんの活動の一つとして、野球ボールとバレーボール磨きを開始しました。現在は特養入居者さんにも活動にご参加いただいています。参加した方からは「ケガなく部活を楽しんでほしい」といった子どもたちへの応援の声や、「自分のリハビリにもなっている」といったポジティブな声が寄せられました。

道具は大事に
使わないとね



トピックス

職員や地域の方々がほっと
笑顔になるような、温かなつながりを
生む取り組みをご紹介します。

札幌市代表として
同病院の利用者さん
3名が参加。
メダルも獲得!



誰もがスポーツを楽しめるように
パラスポーツ大会への参加支援
[札幌溪仁会リハビリテーション病院]

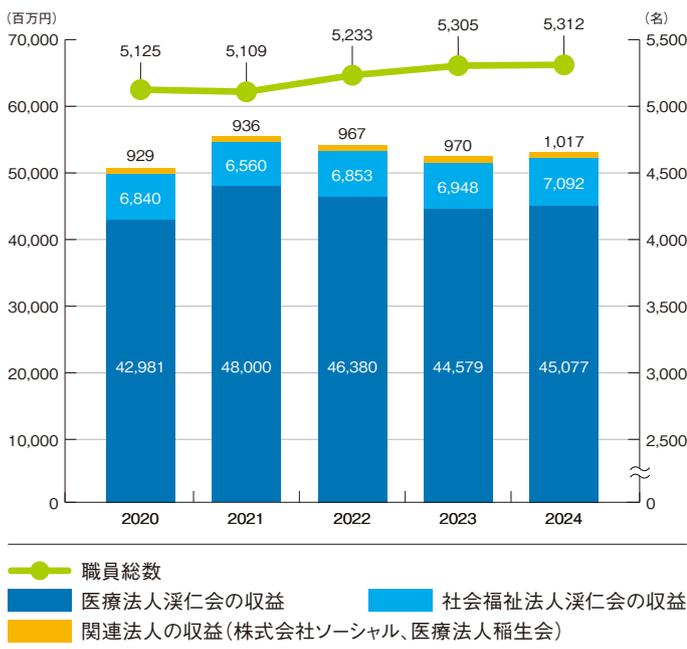
札幌溪仁会リハビリテーション病院の患者さんや、健康増進事業「リ・クリエイト桑園」の利用者さんには、パラスポーツに取り組まれる方がいます。日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会推薦メディカルチェック協力医療機関でもある同病院では、パラ陸上をはじめとしたさまざまなパラスポーツ大会へ、病院スタッフが帯同するなどの参加支援を行っています。2024年は「SAGA2024 全国障がい者スポーツ大会 in 佐賀」で北海道選手団のサポートを行いました。2025年も継続してサポートをしていく予定です。



溪仁会グループの活動の数字

グループ収益と職員総数の推移

溪仁会グループ(医療法人溪仁会・社会福祉法人溪仁会・関連法人)の収益と職員総数について、過去5年間の推移を表したものです。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、事業展開に合わせて職員総数は増加しています。



救急車等受け入れ数(2024年度)

手稲溪仁会病院の救命救急センターは、各診療科と連携しながら24時間365日、救急医療を必要とする患者さんを受け入れています。また道央ドクターヘリ基地病院として、広範囲からの出動要請に対応しています。



ドクターヘリ出動件数(2024年度)



ドクターヘリは、一刻を争う状況下で出動要請が行われるため、要請後に出動キャンセルとなるケースや、離陸後にキャンセルの連絡を受けることもあります。

働き方についての数字

溪仁会グループは「『ずーっと。』人と社会を支える」の社会的使命のもと、保健・医療・介護・福祉の複合事業体としてさまざまなサービスを提供しています。人と社会を幸せにするという目的を掲げながら、職員一人ひとりが長期にわたって生き生きと働くことができる組織であるために、2020年から「溪仁会グループ 健康経営宣言」を掲げています。これに伴い、医療法人溪仁会・社会福祉法人溪仁会は2021年から「健康経営優良法人」の認定を取得し、充実したワーク・ライフ・バランスの実現をめざしています。

育児休業取得率(2024年度)

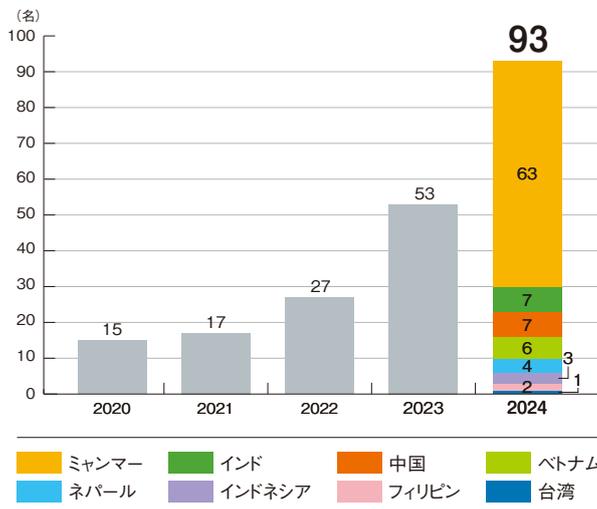


有給休暇消化率(2024年度)



外国籍人財受け入れ数

溪仁会グループでは、出身国への技能移転をめざす「技能実習生」として働く外国籍人財の受け入れを行っています。特に担い手が不足している介護サービスの場において、資格取得や生活面などのサポート体制を強化しています。



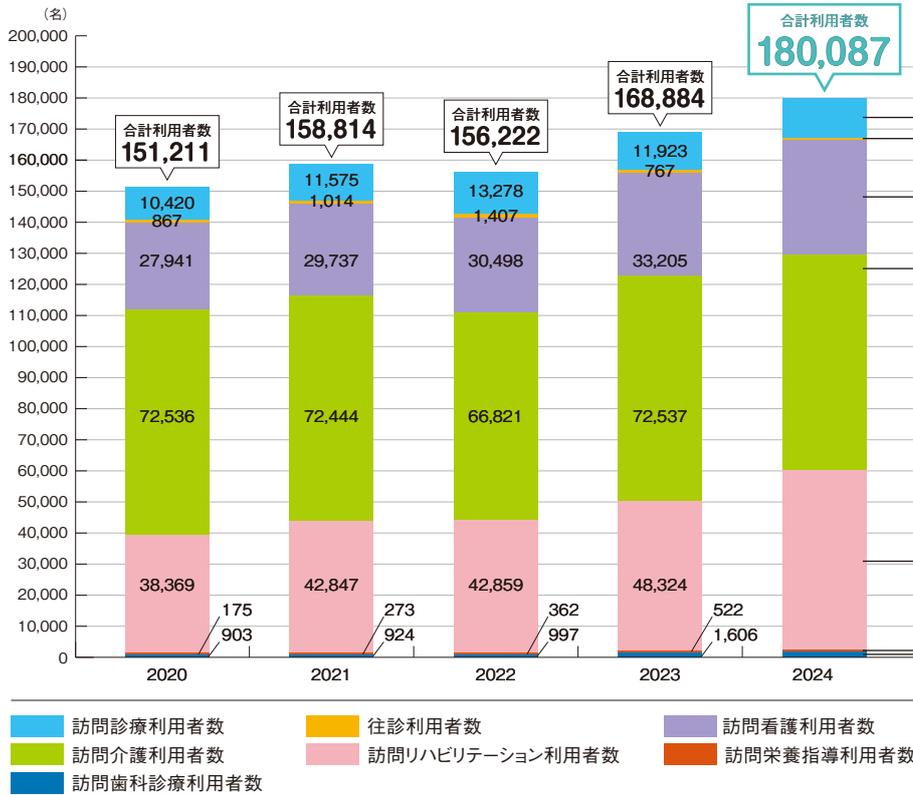
ビジョン溪仁会2025、そして溪仁会グループの社会的使命の達成に向けては、組織や活動のデータを集めて検証し、改善をしながら事業を進めることが大切です。ここでは、溪仁会グループが指標として特に重視している「数字」についてご紹介します。



在宅関連サービスの利用者数(延べ)

「住み慣れた地域で暮らしたい」という皆さまの想いに応えるため、溪仁会グループでは実現すべき目標の1つに「在宅への対応が強化されたグループ組織」を掲げており、さらなる組織間の連携強化や在宅支援サービスの質の向上に取り組んでいます。

■各サービス利用者数の推移(延べ)



〈2024年度〉

■訪問診療※
12,708名

■往診※
872名

■訪問看護
36,713名

■訪問介護
69,425名

■訪問リハビリテーション
57,735名

■訪問栄養指導
753名

■訪問歯科診療
1,881名

※訪問診療…計画的・定期的に医師が患者さんの自宅に訪問し、診療を行うこと 往診…急変時や緊急時に、患者さんの要請を受けて医師が自宅へうかがい、診療を行うこと

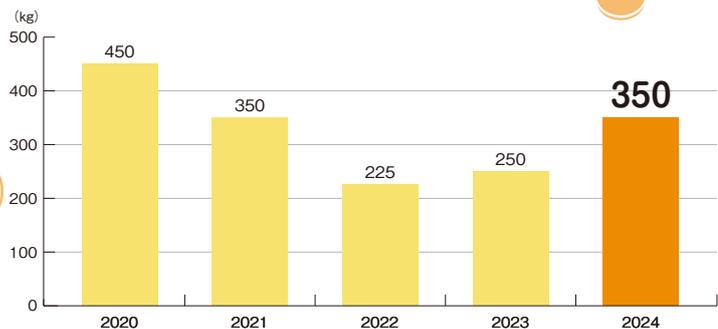
環境の数字

グループ各拠点でリサイクル資源の回収活動を行っています。リングプルは車いす寄贈に(P45参照)、エコキャップはワクチン寄贈につながっています。

エコキャップ回収量(2024年度)

1,202kg

リングプル回収量



TOPICS & 活動報告

溪仁会グループの各施設では、ビジョン溪仁会2025の達成に向け、機能や特色を活かした取り組みを行っています。各施設の主な取り組みと、2024年度の活動の成果の数字をご報告します。

各施設の数字の見方

- 【施設の主な指標】**
各施設がその機能を発揮し、ビジョン溪仁会2025を達成するために最も重視する業績の数字を定点観測し、過去5年分（開設5年以内の施設は開設から）の推移を掲載しています。
- 【その他の活動の数字】**
それ以外の活動業績の実績を掲載しています。



溪仁会円山クリニック

保健

施設の機能

人間ドック・健康診断施設として、健診の受診から健診後のフォローアップまで、一貫したシステムで、利用者さんから安心と納得、満足の得られる健診サービスを提供します。



検査精度とサービスの質の高さを守りつつ より利便性の高い健診を実現

溪仁会円山クリニック
院長
中村 文隆



人間ドック・健康診断は、病気を早期発見することが目的です。健診施設の価値は、精密検査を行う医療機関に、検査すべき人をつなぐ精度管理のレベルにあります。つまり、白黒をつけるべきグレーを適切に見つけ出せるかが重要です。当クリニックでは、紹介先医療機関での検査結果を調査・確認し、そのレビューを通じて精度向上に努めています。

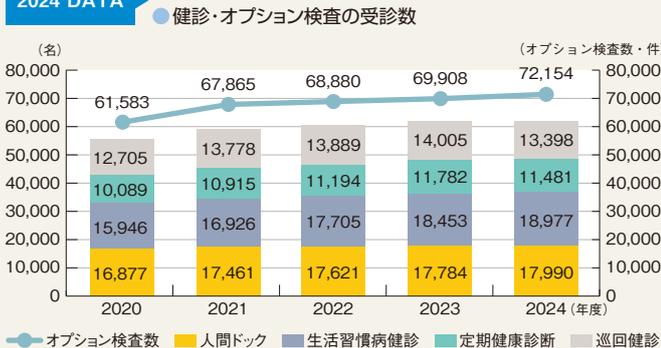
当クリニックは2024年度に、約6万2,000件の人間ドック・健康診断を実施しました。これは健診施設としては道内トップクラスの数字となります。受診者数は年々増加しており、さまざまな業務の効率化を行うことで対応してきました。一日当たりの健診受診枠を2013年の180名から、2024年には204名にまで増やすことができたのはひとえに職員の尽力のたまものです。

しかし、現在の受診枠でも全ての希望者を受け入れられ

ているわけではなく、さらなる受診枠創出が大きな課題となっています。そこで、「より多くの受診者の期待に応える」という使命を果たすべく、2025年度下期より、これまで休診としていた月曜を受診日とすることにしました。受診者の健康を第一に考え、柔軟に対応してくれている職員の皆さんには深く感謝しています。共に力を合わせ、チーム一丸となって準備を進めていきたいと考えています。

現在の医療業界は、技術革新の速度が飛躍的に向上しています。当クリニックにも新たなテクノロジーは必要であり、一部サービスのWeb予約やAI電話システムを導入しました。今後もAI画像診断などの質向上につながるもの、Webでの問診票記載、結果表提供など受診者の利便性につながるものは、積極的に動向を注視していきたいと思っています。

2024 DATA 【施設の主な指標】



認知症の初期段階の軽度認知障害への進行リスクを調べる血液検査の導入や、胃カメラ検査枠を拡大し、受診希望者の受け入れ体制の強化を図りました。

【その他の活動の数字】

- 60歳以上の受診者数 12,186名
- 1日平均受診者数 198名
- 特定保健指導実施件数 4,234名

手稲溪仁会医療センター（手稲溪仁会病院・手稲家庭医療クリニック・はまなす訪問看護ステーション）

治療とケア

施設の機能

手稲溪仁会病院は、急性期医療・専門医療を提供する地域中核病院です。質の高い急性期総合医療を提供すること、また地域住民の皆さんから頼りにされる病院であることを使命とし、職員一同、日々研さんしています。その結果、「地域医療支援病院」「地域がん診療連携拠点病院」「救命救急センター」「ドクターヘリ基地病院」「災害拠点病院」「臨床研修病院」などの指定を受け、多種多様な疾患の受け入れを行っています。手稲家庭医療クリニック・はまなす訪問看護ステーションは、家庭医療および総合診療、在宅医療サービスを提供する地域包括ケアシステムの要を担う診療所です。地域住民の健康を守る“かかりつけ医”として地域に密着した活動を続けています。

PICK UP!
2024さまざまなハイリスク出産を支える
母子はぐくみセンターの取り組み総合病院の連携体制のもと
ハイリスクな妊娠・出産をサポート

出産の高年齢化や、生殖補助医療の普及などを背景に、母体や胎児・新生児に異常が発生する危険性の高いハイリスク妊産婦さんが増加しています。手稲溪仁会病院は2001年に地域周産期母子医療センターに指定され、ハイリスク妊産婦さんを積極的に受け入れる周産期医療を提供してきました。2016年には産科・婦人科・小児科を横断した「母子はぐくみセンター」を設立して診療体制を強化しており、同年には札幌市の第1種入院助産施設の認可を受け、未受診をはじめとした、経済的・社会的なハイリスクの妊産婦さんの受け入れも行っていきます。

不妊治療にも力を入れるほか、2021年からは流産・死産を繰り返す不妊症への専門的治療を行う不妊症センターを立ち上げました。2022年7月からはNIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）実施機関に認定されています。「不妊症センターから引き継いでの妊娠管理はもちろんのこと、他医療機関での不妊治療後、ハイリスクと診断された方が紹介されるケースも増えました。総合病院として他科と連携しながら、診られる方は可能な限り受け入れる方針で診療しています」と母子はぐくみセンターの福士義将副センター長は話します。

リエゾン診療科との連携で
精神面のリスクにも立ち向かう

周産期はメンタルヘルスが悪化しやすく、精神疾患を合併した妊産婦さんへの対応が必要となるケースも増えています。同病院ではリエゾン看護師*を中心にした支援を行ってきましたが、2025年7月からは精神保健科医、公認心理士、リエゾン看護師からなるリエゾン診療科と母子はぐくみセンターの連携を開始しました。「当病院には精神科の病床はありませんが、地域の診療体制維持のためには、精神疾患合併妊娠の受け皿を増やさなければならないと感じました。重症の方は精神科のある病院につなぎ、当病院での対応が可能な方は受け入れていくつもりです」と長谷山圭司センター長は説明します。

入院対応だけでなく、精神的なリスクのある妊産婦さんには、リエゾン看護師や地域の保健師と連携して対応。虐待リスクがある場合などは、同センターと、保健師・児童相談所など関係機関で合同カンファレンスを実施し、地域ぐるみの支援体制を築いています。

これらの背景には、核家族化による妊産婦さんの孤立もかかわっています。母子はぐくみセンターでは産前・産後教室で出産や育児の知識を提供するほか、2023年12月からは札幌市産後ケア事業の実施施設として、日帰り・宿泊の産後ケアを提供しています。「お母さんと赤ちゃんの心身の回復をサポートし、笑顔でおうちに帰れるようできる限りの支援をしたいと思います」と看護部の佐久間知生師長が話すように、今後もさまざまな角度から妊産婦さんご家族の支援を続けていきます。

*精神看護専門看護師のこと



手稲溪仁会病院
母子はぐくみセンター
センター長
小児科 部長
長谷山 圭司



手稲溪仁会病院
母子はぐくみセンター
副センター長
産婦人科 主任部長
福士 義将



手稲溪仁会病院
看護部 師長
佐久間 知生

手稲溪仁会医療センター（手稲溪仁会病院・手稲家庭医療クリニック・はまなす訪問看護ステーション）

治療とケア

PICK UP!
2024

内科専攻医統括部の取り組み



初期臨床研修プログラム(P23参照)を終えた研修医の多くは、専門研修を受ける「専攻医」となります。手稲溪仁会病院では、内科領域の人財育成を強化するため、2024年4月に「内科専攻医統括部」を設立しました。

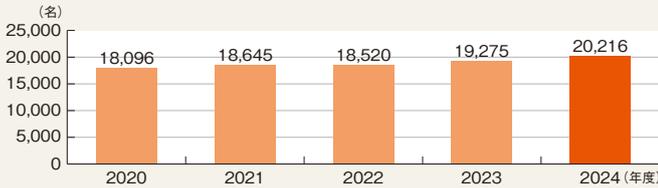
内科は診療領域が広く、さまざまな臨床的問題への対応力が求められるため、将来、どの専門領域を選択する場合でも、内科全般にわたる基礎力を身に付けることが重要です。同病院の内科専攻医は、内科専攻医統括部に所属して総合的に内科診療を学びながら、各内科の診療科をローテーションして、自身の希望する領域を重点的に学びます。研修期間中の留学制度に加え、部内でのカンファレンス、症例検討会なども行っており、学びを深める多様な機会を提供しています。

同病院では専攻医一人ひとりの理想や将来像に近づけるよう、今後も豊富な選択肢と自由度の高いプログラムを提供していきます。

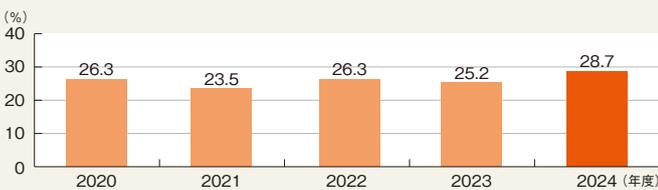


2024 DATA 【施設の主な指標】

●手稲溪仁会病院・新入院患者数

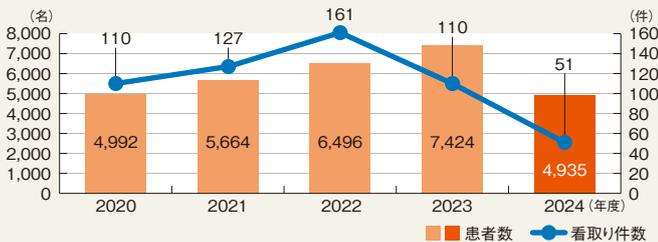


●手稲溪仁会病院・DPC入院期間Ⅱ超え比率



急性期病院として入院期間の適正化に取り組み、地域医療の最適化を図っています。医療情勢を踏まえると、DPC入院期間Ⅱ超え比率には年度ごとの変動が認められますが、新入院患者数は増加傾向にあり、地域医療への貢献を継続しています。今後も早期退院・転院の体制整備を推進していきます。

●手稲家庭医療クリニック・訪問診療延べ患者数および看取り件数



2024年度は医師の減少に伴い訪問診療対応件数、看取り件数ともに前年より減少しました。そうした中でも、はまなす訪問看護ステーションをはじめ、地域の各医療機関との連携を継続し在宅医療の推進を図っています。また、地域機関とのカンファレンスやACP普及活動を活発に行っています。

【その他の活動の数字】

<手稲溪仁会病院>

- 外来実患者数/月..... 16,219名
- 救急応需率/月..... 68.8%
- 紹介患者数/月..... 1,211件
- 紹介率/月..... 76.8%
- 逆紹介件数/月..... 1,307件
- 逆紹介率/月..... 82.9%
- 外来初診割合/月..... 9.8%
- 薬剤管理指導件数/月..... 1,875件
- 周術期栄養管理実施件数/月..... 328件
- 周術期口腔ケア件数/月..... 613件
- リハビリテーション件数(初期・早期)/月..... 12,270件
- クリニカルパス適用率..... 48.4%

<手稲家庭医療クリニック>

- 外来延べ患者数..... 25,901名
- 看取り患者数(在宅)..... 51名
- 予防接種実施者数..... 3,559名
- 栄養指導実施者数..... 1,373名
- 訪問看護延べ利用者数(はまなす訪問看護ステーション)..... 17,689名

札幌溪仁会リハビリテーション病院

リハビリと療養

施設の機能

効果的で効率的な回復期リハビリテーション医療を軸に、退院後の生活をより豊かにするための外来、通所、訪問リハビリテーションを提供し、社会復帰や社会参加への取り組みを支援しています。

PICK UP!
2024

リハビリテーション部の紹介動画をリニューアル



採用活動を行うにあたり、病院の雰囲気や取り組みなどを伝える紹介動画は、有効なツールの一つです。札幌溪仁会リハビリテーション病院でも、2017年6月の開院当初から、リクルート活動の一環としてリハビリテーション部の紹介動画を制作し、活用してきました。

こうした取り組みを継続する中で、医療業界の変化や多様化する情報発信の在り方に対応するため、2024年5月には院内でリクルート活動を見直す協議を行い、紹介動画も最新の内容にリニューアルしました。

新たに作り上げた約5分半の動画では、溪仁会グループの理念や役割をはじめ、同病院開院からの7年間の歩みや、回復期リハビリテーション病棟の役割や地域での活動など、魅力がより詳細に伝わる構成にしました。また、同病院で働く姿を求職者がイメージしやすいよう、教育体制や福利厚生、職員の1日の業務の流れなども丁寧に紹介しています。

動画は同病院ホームページ「部門紹介」および同部の公式YouTubeチャンネルで公開されており、再生回数はチャンネル内でも上位に入る実績を記録しています。2025年採用の職員からも「入職前に紹介動画を見ていた」との声が寄せられました。また、YouTubeの視聴者分析を通して、想定していた若年層だけでなく、幅広い年齢層の方々に見ていただけていることもわかりました。

現在は2026年度の採用活動に向けた動画の準備も進めています。リクルート対象となる学生や求職者に加え、患者さんやご家族、地域の方にも同病院の活動や思いを伝えられるよう、これからも情報提供に取り組んでいく予定です。

族、地域の方にも同病院の活動や思いを伝えられるよう、これからも情報提供に取り組んでいく予定です。

札幌溪仁会リハビリテーション病院の概要

地域包括ケアで医療と介護の連携拠点となり、地域の人が安心して「ずっと」生活ができる街づくりを目指す

施設名：札幌溪仁会リハビリテーション病院
通称：Kリハ
標榜科：リハ科、循環器内科
病床数：155床 回復期リハビリ病棟（3つの病棟）
併設事業：訪問リハさくら・通所リハ

札幌市中央区北10条西17丁目（1160坪・3837.98㎡）
5F 病室51床、リハ室
4-3F 病室52床×2、リハ室
2F リハセンター、スタッフルーム会議室管理部門
1F 外来、入退院支援センター

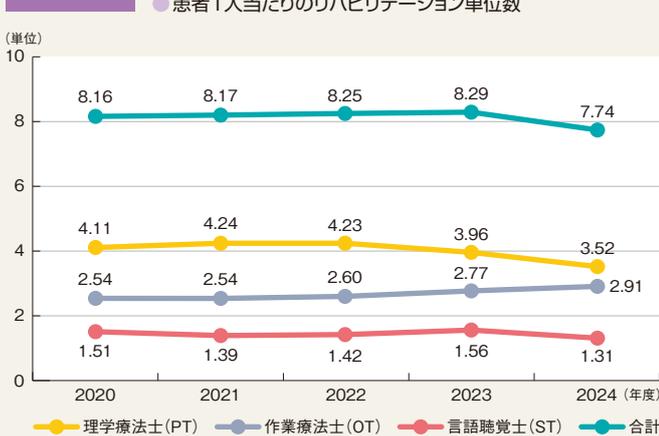
8:50~12:00 リハビリテーション業務



紹介動画は
こちらから視聴できます



2024 DATA 【施設の主な指標】



【その他の活動の数字】

- 外来延べ患者数 10,180名(1日平均41.4名)*
- 入院延べ患者数 56,107名
- 入院患者平均年齢 74.5歳
- 平均在院日数 68.0日
- 在宅復帰率 87.1%
- リハビリテーション実施単位数
 - 外来 16,971 単位
 - 入院 434,488 単位
- 訪問リハビリテーション実施単位数
 - 20,222 単位(医療)
 - 23,487 単位(介護)
 - 1,978 単位(予防介護)
- 通所リハビリテーション利用者数 2,583名(月平均215.3名)
- 実績指数(施設基準では40以上が必要) 44.2(平均数値)

※リハビリテーション科と内科の合計

リハビリテーションスタッフを計画的に安定して配置しており、良質なリハビリを提供しています。

札幌西円山病院

リハビリと療養

施設の機能

多機能慢性期病院として、リハビリテーション機能を充実させています。200名を超えるリハビリスタッフが在籍し、多職種での綿密な協働はもちろん、地域の介護施設や医療機関とも密接に連携しています。また、地域貢献活動にも力を入れており、医療公開講座の開催やオンラインリハビリ健診の実施など、2024年度には130件超の取り組みを実施しました。「長期慢性期医療」から「治し支える医療」への転換を図るとともに、「地域多機能病院」としての役割を意識し、地域に根ざした医療と在宅支援の充実に努めています。

PICK UP!
2024

「にしまる訪問看護ステーション」を開設



札幌西円山病院では、多機能慢性期病院として、訪問リハビリや訪問診療などのサービスを提供し、退院後も安心して自宅で療養できる支援体制の強化に取り組んでいます。

2025年4月1日には、グループ内の機能再編により、札幌溪仁会リハビリテーション病院が運営していた「訪問看護ステーション そうえん」の事業を移管し、新たに「にしまる訪問看護ステーション」を開設しました。

現在、同ステーションには看護師7名が在籍し、札幌市内全域への訪問看護を実施しています。地域住民の駆け込みステーションとなるよう、24時間365日の連絡対応体制に加え、必要に応じて札幌西円山病院での入院受け入れができる連携体制の構築にも注力しました。同病院のつながる地域サポート部が行う地域活動にも積極的に参加しており、地域の方からの相談や新規利用

の増加につながっています。

今後は地域のステーションとの連携を強化し、中央区を中心とした連携BCP※の体制づくりや、在宅看護の人財育成に向けた学びの場の創出なども進めていきます。

※Business Continuity Planの略、事業継続計画のこと



2024 DATA 【施設の主な指標】

●ポストアキュート/サブアキュート受け入れ件数



急性期治療を終えた後の在宅復帰を支える「ポストアキュート」機能や、病状が不安定で継続的な医療管理が必要な「サブアキュート」機能を担うことで、地域の医療ニーズにきめ細かく対応しています。

【その他の活動の数字】

- 外来延べ患者数 22,410名
- 入院延べ患者数 208,487名
- 地域活動実績数 133件
- リハビリテーション実施単位数 678,303単位
 - 入院 674,374単位、外来 3,929単位
 - ・がんリハビリテーション 11,982単位
 - ・心臓リハビリテーション 10,622単位
- 患者一人あたりのリハビリテーション平均単位数
 - 回復期病棟 6.6単位/日、神経内科病棟 4.1単位/日
- リハビリテーションスタッフ数 201名 (PT88名、OT65名、ST48名)
- 訪問リハビリテーション実施件数 15,536件

札幌西円山病院 介護医療院

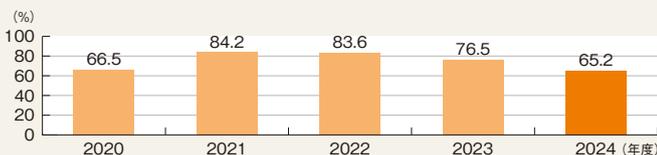
介護

施設の機能

2018年7月に開院し、「にしまるポッケ」の愛称で親しまれています。医療施設と生活施設の機能をあわせ持ち、利用者さんの生活の維持向上に向けたサービスを提供しています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●医療処置割合



医療処置とは喀痰吸引、経管栄養、インスリン注射を示しています。自宅での生活が難しくても介護医療院であれば医療を受けながら生活の維持・向上を図ることができます。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度 4.39 (入所)
- 1日当たり実績 入所 59.4名

定山溪病院

リハビリと療養

施設の機能

地域包括ケア病棟、障害者病棟、医療療養病棟を有した多機能型慢性期医療機関です。患者層は小児～高齢者と幅広く、短期～長期の入退院支援と地域支援のため在宅サービスを拡充しています。

PICK UP! 2024

「いきいき病院祭」を開催



2024年9月16日、定山溪病院で「いきいき病院祭」を開催しました。6年ぶりの開催となった今回は、地域向けの健康講座「いきいき地域づくり講座」との合同企画として実施。患者さんやご家族、地域の方が、年代を問わず、体験しながら楽しく学べる内容をめざしました。VRでの認知症体験コーナーのほか、職員による演芸や縁日コーナー、院内スタンプラリーなど、さまざまなイベントを行いました。

当日は300人以上の方が来院し、参加者アンケートでは5段階

評価で平均4.73と好評をいただきました。2025年度も体験企画を充実させ、地元の観光施設や人気店の出店など、さらに地域を巻き込んで開催し、1,300人以上の方にご来院いただきました。



2024 DATA

【施設の主な指標】

● 年間入院患者数



年間の相談・入院数は前年度より減少したものの、市中の発熱患者が増加した際に慢性期救急としての役割を担い積極的な入院受け入れを行いました。今後も有事の際も平時においても地域に必要な医療機関をめざします。

【その他の活動の数字】

- 抑制解除率 100%
転倒・転落発生率..... 地域包括ケア病棟 0.57%、障害者病棟 0.25%、医療療養病棟 0.10%
- 地域包括ケア病棟サブアキュート受け入れ率 81.1%
- 入院患者平均年齢 78.4歳
- リハビリテーション平均単位数 地域包括ケア病棟 2.2単位/日、障害者病棟 3.5単位/日、医療療養病棟 2.2単位/日
- 大浴場での温泉入浴評価・訓練件数 98件*
- 地域別患者率..... 札幌市内 90% (南区54%、他区36%)、札幌市外 10%
- 訪問看護延べ患者数 (訪問看護ステーションエール) 2,233名

*入浴施設は全て定山溪温泉の温泉水(ナトリウム塩化物泉)を使用

溪仁会真駒内在宅クリニック 在宅支援・生活支援

施設の機能

札幌市南区を中心に、豊平区や中央区にも訪問診療と訪問リハビリを提供しています。一人ひとりの「私らしく」を支援するため、気軽に相談できるパートナーであることをめざしています。

2024 DATA

【施設の主な指標】



拠点を真駒内エリアに移して2年が経過しました。「訪問診療」では、既存の施設の患者数が増え、依頼も増えています。「訪問リハビリ」では、年度の後半で依頼が大幅に増え、要介護・要支援の方ともに登録者数および患者数が増加しています。

【その他の活動の数字】

- 訪問診療施設件数 20施設、157名
- 訪問診療延べ患者数 2,778名
- 訪問リハビリ延べ利用者数 18,531名

*2022年9月までは定山溪病院、2022年10月から溪仁会真駒内在宅クリニックの実績となります。

泊村立茅沼診療所

地域医療支援

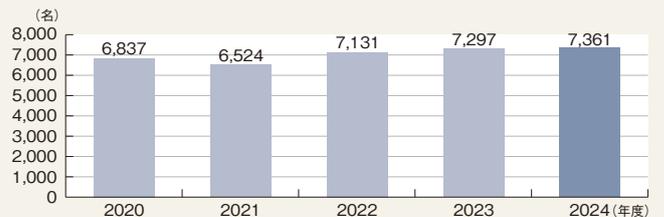
施設の機能

泊村で唯一の医科診療所として、外来診療のほか企業や学校の健康診断、住民検診、各種ワクチン接種、隣接する福祉施設入所者の健康管理も担う地域医療の拠点となっています。

2024 DATA

【施設の主な指標】

● 外来延べ患者数



【その他の活動の数字】

- 保健予防活動
予防接種 1,257名
企業・学校健診 833名
住民検診 80名
- 主治意見書作成 67件

社会福祉法人 溪仁会

社会福祉法人溪仁会は地域で暮らす高齢の方々の介護・福祉を支え続けるため、福祉ニーズの変化や地域の未来を見据え、強固な経営基盤の確立に取り組んでいます。

「ひとりと向きあう。」という 強い決意と覚悟をもち 地域の福祉を担い続ける

社会福祉法人溪仁会
理事長 谷内 好



タグラインの制定と事業承継への思い

2023年に新型コロナウイルス感染症は5類に移行したものの、介護・福祉現場では依然としてマスクの着用が続くなど、心理的な抑制もあり、2024年度もコロナ禍前の利用状況に戻るには至りませんでした。また、福祉人財の減少も深刻化し、介護職や相談職などの採用に苦心することもありました。そうした困難な状況にあっても、各施設・部門がサービスの強化や経営改善に取り組み、法人が一体となって事業を押し進めていく姿勢がより明確になった年でした。

法人の組織基盤の強化を図る上で重要な取り組みとなったのが、法人タグライン(スローガン)の制定でした。これは、中期経営計画「ビジョン福祉45」で掲げている広報戦略の一つであり、当法人の姿勢やサービスの質などを一貫したイメージで発信し、ブランド力を高める狙いがあります。あらゆる行動の基準として「ひとりと向きあう。」というタグラインが組織に根付き、すべての職員がそれを実践できるようにすることが重要です。また、さまざまな活動を通してこのタグラインが地域に浸透し、当法人の施設やサービスに一層の親しみや信頼を感じていただけるようになることを期待しています。

超高齢社会では介護サービスの利用者が増大する一方、その事業経営を取り巻く環境は厳しさを増し、まさに逆風ともいえる状況が続いています。当法人は社会情勢の変化を見据え、事業内容の見直しと拡張に取り組んでいます。他法人から既存の施設の運営を承継し、2025年4月に「藤野すずらの杜」を開設したこともその一つです。介護事業経営の厳しさを十分に認識した上で、それでも「やろう」という強い覚悟を持って挑戦をしなければ、組織を

発展させていくことは難しいでしょう。安易に妥協することなく、困難やリスクがあってもそれを乗り越え、地域の福祉を支え続けることが、私たちの果たすべき社会的責任であると考えています。

誠実に取り組みを重ね信頼される法人へ

少子高齢社会を見据え、当法人ではかねてより人財の採用と育成に力を注いできました。特に人財育成は重要なテーマであり、職員一人ひとりに能力を発揮してもらうため、職能教育と階層教育を体系的かつ継続的に行う研修制度の在り方を検討しています。また、近年は社会人として求められる知識や教養が多様化していることから、臨床倫理などの専門教育に加え、ICTや金融に関する基本的なリテラシー教育なども提供し、職員の人間的な成長もサポートしていく計画です。誰もが「この法人で働いて良かった」と実感できるような教育体制や人財活用制度を整えたいと考えています。

当法人がめざすのは、安定した経営基盤のもとで、すべてのステークホルダーから信頼される姿です。そのためには、法人タグラインにふさわしい職員教育や介護サービスの質の向上が求められます。また、安全・安心な施設環境の整備、職員一人ひとりが幸せと感じる労働環境の追求、社会的な信頼を損なわないためのコンプライアンスマネジメントの継続も必要です。そうした取り組みの積み重ねが当法人の価値を高め、信頼感の醸成につながります。将来にわたり地域の介護や福祉を担い続けるための強固な組織基盤を築き、社会福祉法人としての使命を果たしてまいります。



PICK UP!
2024

職員の思いを込めた法人タグラインの制定

社会福祉法人溪仁会では、2024年6月に、法人のめざすべき姿勢や職員の思いなどを表現した法人タグラインを制定し、商標登録しました。制定にあたっては全職員にアンケートを実施し、仕事に対する思いや具体的なエピソードなどを聴取しています。その後、ワークショップでの意見交換などを経て、各施設から選抜された職員が施設や法人のめざす姿を話し合う「未来プロジェクト会議」において、「ひとりと向きあう。」という言葉が発表されました。

この「ひとりと」とは、利用者さんや今後介護を必要とする方、そのご家族、職員、地域で暮らす一人ひとりのことを指しており、大勢の中の一人ではなく、かけがえのない存在としての「ひとりと」という意味を込めています。ひとりの方の大切な人生と真摯に向き合い、自

分らしく生きることを支えるという決意を法人全体で共有し、さらなるサービスやケアの向上に取り組んでいきます。



PICK UP!
2024

事業承継による「藤野すずらの杜」の開設



2025年4月1日、社会福祉法人溪仁会と社会福祉法人すずらん福祉会との法人合併が行われました。同時に、すずらん福祉会が運営していた「特別介護老人ホームふじの」「デイサービス虹色」の事業を社会福祉法人溪仁会が引き継ぎ、新たに介護老人福祉施設「藤野すずらの杜」を開設しました。札幌市内での社会福祉法人同士の合併は初めての事例であり、同年1月1日に承継準備室を設置し、時間をかけて準備を進めました。

閑静な住宅街に立つ同施設は、定員80名で全室が個室の造りです。10名単位のユニットごとに、きめ細かなケアを行っています。また、併設のデイサービス虹色では、入浴や食事、レクリエーションなどを提供し、ご自宅での自立した生活をサポートします。これ

までの実績と信頼を受け継ぎ、質の高いサービスによって地域の高齢者福祉を支え続けていきます。



西円山敬樹園

介護

生まれ育った地域に、高齢になっても住み続けることができるという安心をつくれます。なじみの施設として、地域に暮らす高齢の方々、要介護者の方々に、生活全般にわたる介護サービスを提供しています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数123名)



利用される皆さまお一人おひとりが自分らしく年を重ね、最後まで自立した生活を送り、尊厳が保たれた穏やかな時間を過ごしていただくことをめざしています。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………4.0(入所)

月寒あさがおの郷

介護

地域住民の皆さんや近隣施設、医療機関などとの協力のもと、介護が必要になった場合でも安心して過ごしていただけるよう、質の高いサービス提供を通じて地域に貢献できる施設づくりをめざしています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数84名)



施設での生活がより長く充実したものとなるよう、入院された場合でも早期に施設生活の再開をめざし、医療機関との調整やサービスの拡充を図っています。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………3.9(入所)

●通所介護1日平均利用者数……………29.0名(定員40名)稼働率80.5%

※2024年4月～12月 35名定員、2025年1月～3月 40名定員

社会福祉法人 溪仁会

岩内ふれ愛の郷

介護

主に日常生活の介護が必要な高齢の方々を対象に、生活全般のケアのほか、四季折々のレクリエーションなども提供しています。「岩内コミュニティの丘」として他事業と連携し、心身機能の維持にも努めています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数50名)



常勤の理学療法士が日常生活機能を維持できるよう支援し、隣接するコミュニティホーム岩内の言語聴覚士による嚥下評価や生活上の助言体制も整えています。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………4.0(入所)

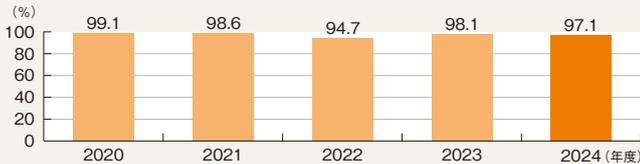
手稲つむぎの杜

介護

介護が必要な状態になっても在宅生活が継続できるよう、複数の在宅サービスを併設。在宅が困難となった場合でも特養入所により慣れ親しんだ地域での生活を継続できるようサービス提供を行っています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数80名)



入所時に健康管理のご意向を確認し、看取りの対応を行っています。また、待機者の状況を定期的に把握し、空床発生時には速やかな入所調整を行っています。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………4.3(入所)

●通所介護1日平均利用者数……………40.5名(定員50名)稼働率81.0%

るすつ銀河の杜

介護

地域密着型特別養護老人ホームとして、併設事業の通所介護、居宅介護支援事業所と連携しながら、「留寿都村で最期まで生活したい」と考えている高齢の方々の福祉ニーズなど、幅広く地域の要請に応えています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数29名)



本体施設「きもべつ喜らめきの郷」との密な連携により、質の高い福祉サービスを提供しています。2024年より短期入所生活介護(空床利用型)を開始しました。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………3.0(入所)

●通所介護1日平均利用者数……………3.3名(定員10名)稼働率32.8%

きもべつ喜らめきの郷

介護

羊蹄山麓を中心としながらも、広域的に柔軟な入居受け入れを図っています。共生社会の実現に向けて、入居者さん・利用者さん、ご家族、地域、施設(職員)などが相互に円滑な連携を図り、必要なサービスを提供しています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数80名)



入居者さん・ご家族のこれまでの人生や生活歴、価値観を尊重し、その人らしい生活を全力で支えます。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………3.1(入所)

菊水こまちの郷

介護

住み慣れた地域で、最期の時まで「わが家」のように過ごしていただけるよう、地域・町内とのつながりを大切にし、町内活動を通じた情報発信を行っています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数29名)



看取り対応を積極的に行っています。また、年齢・病状に幅広く対応することにより、専門職のスキルアップを図り、幅広いニーズに対応できるよう努めています。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………4.3(入所)

コミュニティホーム白石

社会復帰・生活支援

札幌市白石区の中心部にある介護老人保健施設で、地域と連携したさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。リハビリスタッフが充実しており、多職種連携のもと自立に向けた支援を行っています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数100名)



充実したリハビリテーションの提供と、言語聴覚士による嚥下機能の向上や歯科衛生士による専門的な口腔ケアで、より豊かな生活を支援します。

【その他の活動の数字】

●平均要介護度……………3.1(入所)

●通所リハ1日平均利用者数……………41.2名(定員55名)稼働率74.9%

コミュニティホーム八雲

社会復帰・生活支援

八雲町にただ一つ存在する介護老人保健施設です。入所のほか、デイケアや訪問リハビリ、訪問介護も併設しており、住み慣れた地域の中で介護を必要とする人と、その家族の生活を支え続けます。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数90名)



医療・介護・リハビリの体制に加え、歯科衛生士による口腔ケアにも力を入れており、誤嚥性肺炎の予防や味覚障害の改善、食欲の向上など、健康維持・生活の質の向上をめざしています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**2.8**(入所)
- 通所リハ1日平均利用者数……………**29.9名**(定員55名)稼働率53.4%

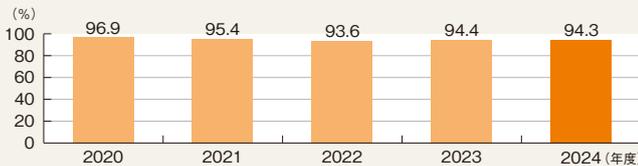
コミュニティホーム岩内

社会復帰・生活支援

入居・通所・訪問などのさまざまな事業が一つの高台に集まる「岩内コミュニティの丘」として、保健・医療・介護・福祉などの幅広いサービスを提供し、住み慣れた地域でのその人らしい生活を支援します。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数100名)



地域の医療機関や介護事業所と連携し「在宅支援・在宅復帰」拠点施設としてサービスを提供しています。岩内町唯一の介護老人保健施設としての役割を果たしながら、より地域に必要とされる施設運営をめざします。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**2.4**(入所)
- 通所リハ1日平均利用者数……………**43.7名**(定員55名)稼働率79.7%

美咲市東地区生活支援センターすまいる 生活支援・通所介護

通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業に加え、自主事業の福祉入浴、美咲市からの受託事業として高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業(LSA)と、福祉の複合事業体として地域に根ざしたサービスを提供しています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●通所介護定数稼働率(定数25名)



振り替え利用や新規受け入れを行うなど居宅介護支援事業所との連携を密にし、スピーディーに対応しています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**1.8**(通所介護・通所型サービスA)
- 通所介護1日平均利用者数……………**22.4名**

コミュニティホーム美咲

社会復帰・生活支援

高齢化が続く地域において、地域包括ケアシステムの一端であるとともに在宅ケアに先立つ準備を担う中間施設として、入所や通所サービスを提供しています。また、災害時の福祉避難所としての機能も備えています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●入所者定数稼働率(定数80名)



在宅復帰・療養のための拠点となる施設として、在宅事業部門「東地区生活支援センターすまいる」と密な連携を継続していき、質の高いサービスを提供します。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**2.8**(入所)
- 通所リハ1日平均利用者数……………**44.5名**(定員65名)稼働率68.4%

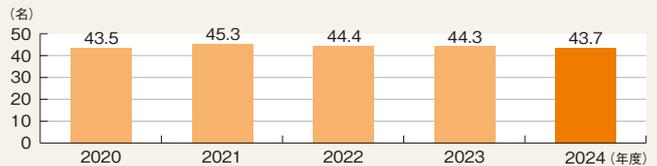
ケアハウスカームヒル西円山 生活支援

生活支援

食事の提供・緊急時の対応・健康管理および相談助言を基本サービスとし、日常生活を支援しています。また要介護状態となった方が入居生活を継続できるよう、特定施設入居者生活介護の指定も受けています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●特定施設入居者生活介護利用者数



リハビリや趣味活動などの充実により心身の介護予防・重度化予防に努めています。いつまでも暮らしていただける施設であることをめざして、職員一人ひとりがさまざまな企画を立てて実践しています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**1.0**(特定施設利用者)

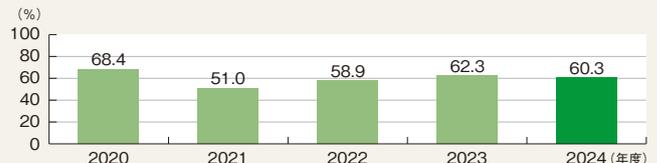
青葉ハーティケアセンター 生活支援・通所介護

生活支援・通所介護

通所介護、訪問看護、小規模多機能型居宅介護の3事業所による複合事業体として地域の方の自立支援を担っています。

2024 DATA 【施設の主な指標】

●通所介護定数稼働率(定数40名)



同一敷地内の訪問看護との連携を強化することにより、利用者さん一人ひとりのニーズに柔軟に対応できる体制を整えています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**1.5**(通所介護)
- 通所介護1日平均利用者数……………**24.2名**

円山ハーティケアセンター

生活支援・通所介護

札幌市中央区の中心部に位置する円山ハーティケアセンターは、マンションの1・2階で高齢者デイサービス事業を提供する施設です。住み慣れた自宅での生活を継続できるように支援しています。

2024 DATA

【施設の主な指標】

● 通所介護定数稼働率(定数80名)



趣味活動や外出行事も再開し、専門的なリハビリのニーズにも対応できる体制を整えています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度…………… 1.3(通所介護)
- 通所介護1日平均利用者数…………… 58.0名

株式会社ソーシャル ソーシャルヘルパーサービス

在宅支援・生活支援

施設の機能

訪問介護員が要介護者の自宅を訪問し、自立に向けた支援(入浴介助・排せつ介助・買い物同行などの身体介護や、掃除・洗濯・調理などの家事面における生活援助)を行います。

PICK UP! 2024

在宅看取り支援の実施

株式会社ソーシャルでは、訪問介護の現場でも、利用者さんやご家族から「住み慣れた自宅で最期を迎えたい」というニーズが増えてきたことを受け、訪問介護における在宅看取りの支援体制を整備しています。溪仁会グループの一員として、医療・介護の連携による切れ目のない支援体制を活かし、2024年度は4件の在宅看取りに対応。利用者さんが安心して穏やかな最期を迎えられるよう支援を行いました。

今後も、地域の一員として、「その人らしい人生の最終章」を支える訪問介護の在り方を追求していきます。

2024 DATA

【施設の主な指標】

● 訪問介護利用者数と延べ利用回数



2021年度に業務効率、経費削減を主目的として3事業所を1事業所に統合しスリム化を実現。要介護者を中心に数字を安定させています。

【その他の活動の数字】

- ヘルパー研修(実績回数)…………… 目標 12回/年、実績 12回/年

医療法人稲生会

医療的ケア児等支援

施設の機能

訪問診療・訪問看護の在宅医療に加え、居宅介護・短期入所の障害福祉サービスを総合的に提供しています。

PICK UP! 2024

「第13回北海道在宅医療推進フォーラムin札幌」開催

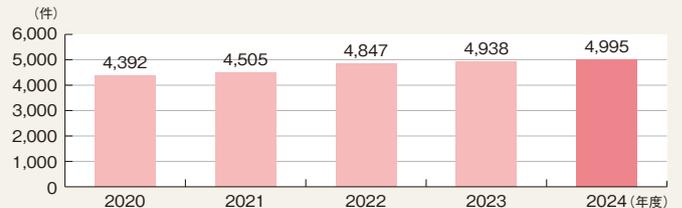
2025年1月11日、医療法人稲生会が事務局となり「第13回北海道在宅医療推進フォーラムin札幌」を開催しました。当日はイオンモール札幌平岡店の2階を会場に、医療機器の展示やシールラリー、フラダンス披露などを実施。当事者、医療関係者、学生など多くの方がボランティアとして参加し、来場した地域の人たちとの交流を通して、在宅医療のことを広く知っていただく機会となりました。



2024 DATA

【施設の主な指標】

● 定期訪問診療件数(往診を除く)



小児や成人障害当事者に対する在宅医療を提供する診療所は少なく、医療的ケアを必要とする子どもたちの出生率は上昇していることから、訪問件数は年々増加しています。

【その他の活動の数字】

- 在宅人工呼吸器管理料算定数/月…………… 年平均 168.1件
- 在宅時医学総合管理料算定数/月…………… 年平均 237.8件(年間総数2回以上=2,117件、1回=736件)

その他の活動TOPICS

ホームページリニューアル

【手稲家庭医療クリニック・はまなす訪問看護ステーション】

施設ホームページを4月1日にリニューアルしました。スマートフォンなどからでも見やすいデザイン・仕様となっています。



「浜仁会」で商標を登録
【医療法人浜仁会】

医療法人浜仁会は、9月3日に「浜仁会」で商標登録の申請を行い、同年11月8日に登録を受けました(登録第6863244号)。

※浜仁会グループのシンボルマーク(登録第6373935号)とグループスローガン「ずーっと。」人と社会を支える(登録第6373936号)は、2021年4月6日に商標登録されています。



5度目の「健康経営優良法人」の認定を取得
【医療法人浜仁会・社会福祉法人浜仁会】

3月10日、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する「健康経営優良法人制度」大規模法人部門において、5度目となる認定を取得しました。



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門



グループ栄養部門責任者会議発足

【浜仁会グループ】

グループ内における栄養管理に関する情報交換や協議を行うグループ栄養部門責任者会議を5月2日に発足。

医療療養病棟を障害者施設等一般病棟へ転換
【札幌西円山病院】

2024年5月をもって、医療療養病棟47床すべてを障害者施設等一般病棟へ転換。現在の障害者施設等一般病棟の合計病床数は516床となりました。

「第16回おたるドリームビーチ清掃活動」を実施
【浜仁会グループ】

6月8日に「第16回おたるドリームビーチ清掃活動」を実施。職員・家族・協力会社の方など約150名が参加しました。



ホテルポールスター札幌に
車椅子を寄贈

【浜仁会グループ】

環境保護活動の一環として収集したリングプルを車椅子に交換しており、12台目となる車椅子を12月3日にホテルポールスター札幌へ寄贈しました。



経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)の
症例数が500例を達成

【手稲浜仁会病院】

手稲浜仁会病院では、機能が低下した心臓の弁(大動脈弁)に対して、カテーテルを用いて人工弁へと置換する治療「TAVI」を行っています。2014年5月に実施施設として北海道で初めて認可を取得し、2024年12月時点で、累計症例数が500例に達しました。

泊村立茅沼診療所に新所長就任
【泊村立茅沼診療所】

泊村立茅沼診療所所長として、4月1日付で飯塚幹也医師が就任。

ミャンマー大規模地震災害への
義援金活動を実施

【浜仁会グループ】

2025年3月に発生したミャンマー大規模地震への復興復旧およびグループ内でのミャンマー出身職員への支援として、災害義援金募金活動に着手。4月3日から5月1日まで募金箱を設置しました。



地域を支え続けていくために 組織の持続的成長と 経営基盤の強化をめざす

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

成田吉明



懸命に努力を続け、逆風に立ち向かう

2024年度は、6年ぶりとなった診療報酬と介護報酬の同時改定が想定を上回る厳しい内容となり、溪仁会グループの経営も大きな影響を受けました。収支面では黒字でしたが、その背景には、各施設が経営改善に取り組んだことに加え、サービスの安全性や提供体制に支障がない限り、建物や高額な機器などのハード面への投資を極力控えるなど、大きな投資を抑制したというのが実情でした。

医療にとっても、福祉にとっても、まさに逆風ともいえる状況が続く中、各施設ではそれぞれの役割や強みを認識し「選ばれる存在」となるべく努力を続けました。各施設が策定した経営目標や事業計画において、収支以外の多くを達成することができたのも、それぞれができること、やるべきことに懸命に取り組んだ成果だと思っています。

グループとして大きく進展したのが、DXへの取り組みです。DXを推進する上での指針を示した「溪仁会

DXグランドデザイン」を策定し、各施設ではDXの導入とそれによる業務の効率化・サービスの向上を図りました。また、近年重視している在宅サービスについて、グループ内の情報共有や連携推進を図るため「在宅ささえるネットワーク拡大会議」を開催し、異なる事業所の職員が共に学び、交流のきっかけになる場を設けました。こうした組織横断的な取り組みが、グループとしての一体感の醸成や、より質の高いサービスの提供に結びついたと考えています。

社会課題の解決に貢献する取り組み

近年は、社会的意義の高い取り組みにも注力しています。その一つが、私がセンター長を務める「医療法人溪仁会看護師特定行為研修センター」の活動（P14-17参照）です。特定行為を行うことができる看護師は、特に医師や医療機関の不足に悩む地方での活躍が期待されています。一人でも多くの方が受講できる機会を増やすため、同センターは外部の医療機関に

所属する看護師も受け入れ、その育成を支援してきました。2024年からは情報交換や横のつながりづくりの場として、年に1度、研修修了者が交流する会を開催しています。今後は、外部からの受講がよりしやすくなるような仕組みをつくるとともに、研修修了者が十分に力を発揮できる体制整備も進めていく考えです。

患者さんの診療情報を統合・共有するためのネットワークサービス「ID-Link」を積極的に活用する取り組みも、手稲溪仁会病院を含む札幌市内の7つの病院が中心となって進めています。将来的には高齢者施設や在宅医療を提供する施設なども情報の共有を図り、スムーズで効率的な医療サービスの提供をめざす計画です。また、適正な医薬品の使用指針を定める「フォーミュラリ」という活動も推進しています。医療の標準化や薬剤費の適正化、在庫管理の負担軽減などを通じて質の高い医療を提供していくために、まずはこの取り組みを手稲区で展開し、ゆくゆくはほかの地域にも広がってほしいと思っています。

こうした活動は地域に貢献する取り組みであり、当グループの社会的使命を体現するものでもあります。地域の皆さまと連携しながら、保健・医療・介護・福祉サービスの未来を創造してまいります。

中期経営ビジョンの集大成となる年に

今年度は当グループが5年ごとに策定してきた中期経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」の最終年度となります。同ビジョンを達成し、さらに新たな取り組みに挑戦するため、2025年度の溪仁会グループ経営基本方針では、基本姿勢を「『ビジョン溪仁会2025』の実現と次なる変革へ」とし、4つの重点項目を掲げました。

「溪仁会ブランドの向上」は永遠に取り組むべきテーマと捉えています。理想は、保健、医療、介護、福祉のどの分野においても、真っ先に「溪仁会」の名前が思い浮かぶような存在となることです。一つ一つの施設がその価値や優位性を発揮し、存在意義を示すことがブランド力の向上や確立につながっていきます。

「適正利益の確保」では、収益の改善が喫緊の課

題であることを示しました。各施設では稼働率を100%に近づける努力を継続すると同時に、業務改善やコストの適正化を図り、強固な財務基盤の確立をめざしています。

「DXの推進」についてはそれぞれの現場での取り組みが進んでおり、今後は当グループが目標とする、収集したデータの利活用に向けて着実に前進したいと考えています。

「VUCA (P19参照)の時代を克服できる人財育成」は、先が予測できない複雑で不確実な状況の中でも、自律的に判断し、行動できる人財の育成を意味します。そのための研修制度やキャリア支援制度などをより充実させ、職員の成長を支援する体制を整えていきます。

これらは、当グループが継続的に取り組んできた目標であり、今年度はその集大成として達成度をより高め、次期につなげたいと考えています。

利益体質を強化し、持続的な成長を図る

現在は、次期中期経営ビジョン策定に向け、準備を進めています。各施設から、理想とする溪仁会グループの姿、こういう組織になってほしいという意見を集約し、その声を次期のビジョンに反映したいと考えています。

私が思い描くのは「ここで働いて良かった」と職員が実感できる組織です。その姿を実現するためには、まず組織を持続させる必要があります。どんなに良い医療や介護を実践していても、継続できなければその価値は失われてしまいます。当グループがいつまでも地域の保健・医療・介護・福祉サービスを支え続けていくためには、収益性も高め、必要な投資を適切に行いながら、持続的な成長を図ることが重要なのです。

当グループの誇るべき点は、自分たちがめざす医療や介護のサービスを実現しよう、より高めていこうという組織風土が根づいていることです。各施設がすべての分野において秀でた存在になることを目標に、たゆまぬ努力と挑戦を続け、これからも質の高い保健・医療・介護・福祉サービスを追求してまいります。

第三者意見

報告の信頼性を高め、グループの活動を見直し質の向上へつなげるため、地域経済や組織運営に明るく、CSR分野に詳しい有識者に本レポートへのご意見をいただきました。いただいたご意見は、活動の改善や次回のCSRレポート編集へ活かしてまいります。

国立大学法人 北海道国立大学機構
小樽商科大学

学長 穴沢 眞 (あなざわ まこと)

プロフィール

北海道大学経済学部、同大学院経済学研究科博士後期課程修了
小樽商科大学講師、同助教授、同教授を経て現職
アジア経営学会理事、北海道経済学会理事



溪仁会グループはその社会的使命として、高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより「一人ひとりの生涯にわたる安心」と「地域社会の継続的な安心」を支えることを掲げています。

今回の特集のテーマは「医療・福祉の未来を見据えて」です。特集記事は現在、溪仁会グループがどこに焦点を当てて事業を進めているのかを示しています。地域の救急医療、多様な医療・福祉人財の受け入れ、そして質の高いサービス、療養や介護が必要な方が住み慣れた地域で暮らす、という三つの取り組みが紹介されています。病気やケガなどの治療、それを維持するために外国籍の人財を活用すること、そして人々が住み慣れた地域で暮らしているように医療や介護のサービスを提供することは、人々の人生のすべてにかかわる取り組みでもあります。換言すれば、地域の人々のあらゆる人生の場面でのケアを一体的に捉え、それを維持する方策をまとめたものが今回の特集であり、その中に上記の溪仁会グループの社会的使命が凝縮されています。

救急医療の重要性は改めて強調する必要がないほど、我々にとって喫緊の課題です。2005年の開設以来、手稲溪仁会病院救命救急センターがその役割を担ってきました。また2021年に設立された「こども救命センター」のトータルケアの考え方は他の活動

にも通じるものがあります。

事業の継続は理事長のメッセージにもあるように医療・福祉機関の使命です。医療や福祉、介護での人手不足は毎年深刻さを増しています。これまでも溪仁会グループは介護人財として外国人スタッフを採用し、育成してきましたが、人口減少の中でこれまで以上に外国籍人財の活用が増えています。2024年からは新たにインド人スタッフを採用しており、今後、外国籍人財の活用が不可欠になるでしょうが、その流れに沿って事業の継続のために手を打っている様子が見えがえします。

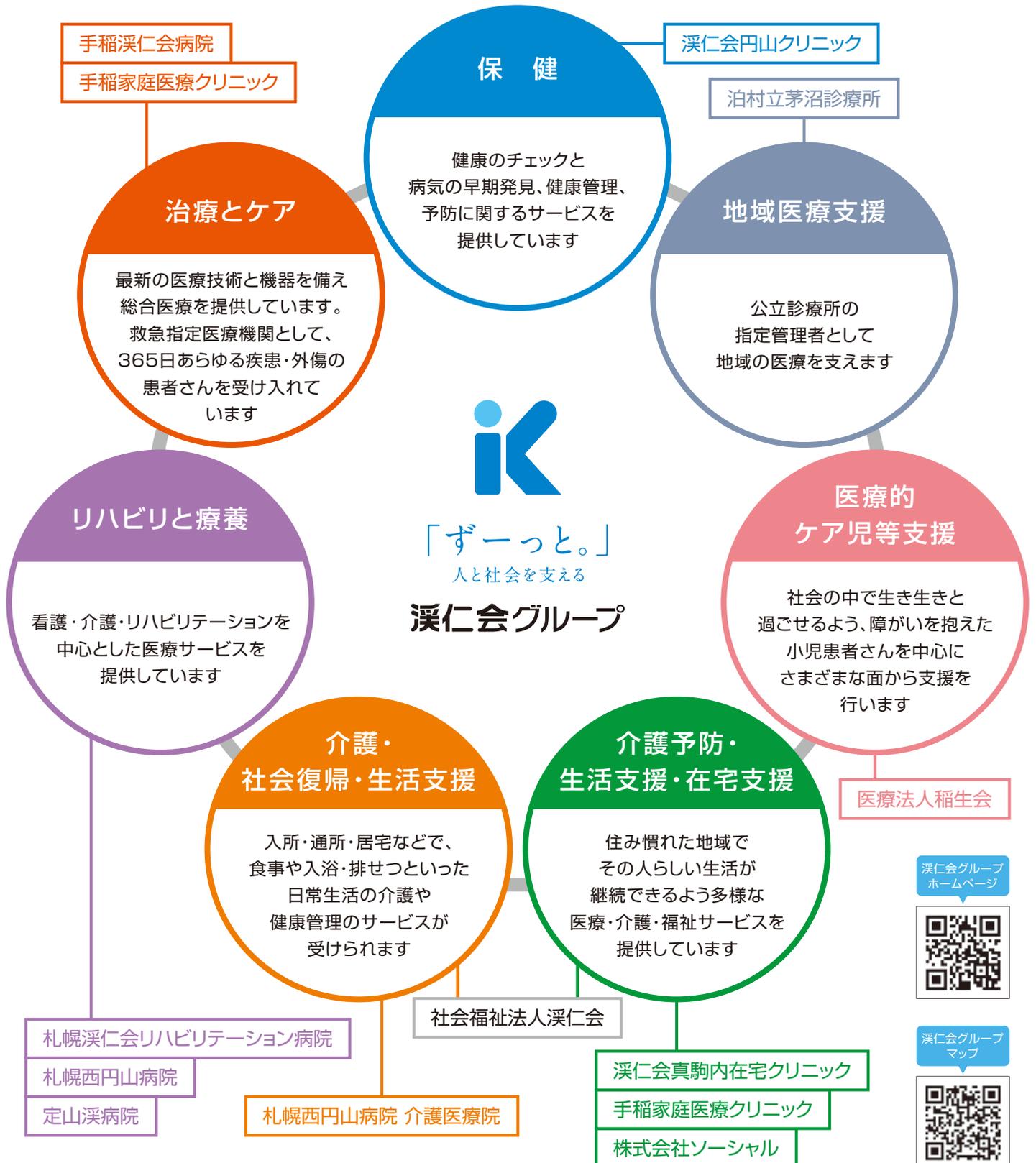
自分らしく人生の終盤を迎えることは多くの高齢者の希望であります。生まれ育った地域に残り、そこにとどまり、介護などのサービスを受けることができれば豊かな人生を享受することができるのではないでしょうか。

医療や介護は人々の人生に向き合うことであり、崇高な職業であり、その責任も大変重いものがあります。理事長からのメッセージにもある通り、今年度が「ビジョン溪仁会2025」の最後の年であり、その実現と次の変革に向けて4つの重点項目が掲げられています。それらを実現し、社会的使命に沿ったグループ経営を行うためにも、引き続き患者の皆さん、介護を受ける方々との対話を大切にすることが肝要です。

溪仁会グループ概要

溪仁会グループは1979年の創立以来、地域の保健、医療、介護、福祉を支えるサービスを提供してきました。

各事業所が相互に連携してサービスを切れ目なくつなぎ、
地域の皆さまの生涯にわたるさまざまな場面で、健康と安心をサポートしています。



治療とケア

最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、365日あらゆる疾患・外傷の患者さんを受け入れています。

(高度)急性期・専門医療 手稲溪仁会病院
 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
 ☎011-681-8111

手稲家庭医療クリニック
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-685-3920

リハビリと療養

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

回復期医療 札幌溪仁会リハビリテーション病院
 札幌市中央区北10条西17丁目36-13
 ☎011-640-7012

回復期・慢性期医療 札幌西円山病院
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-4121

地域包括・慢性期医療 定山溪病院
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3323

保健

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック
 札幌市中央区大通西26丁目3-16
 ☎011-611-7766

介護

●介護医療院

住まいと生活を医療が支える居宅系施設です。

札幌西円山病院 介護医療院
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-4121

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

原則65歳以上の方を対象に介護サービス計画に基づき、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や機能訓練、健康管理を行っています。

西円山敬樹園
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021

月寒あさがおの郷
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333

岩内ふれ愛の郷
 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎0135-62-3131

きもべつ喜らめきの郷
 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎0136-33-2711

手稲つむぎの杜
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726

藤野すずらの杜
 札幌市南区藤野2条12丁目20-1
 ☎011-211-0230

地域密着型介護老人福祉施設

菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

るすつ銀河の杜
 虻田郡留寿都村字留寿都186-95
 ☎0136-46-2811

●介護老人保健施設

病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に医療・保健・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。

コミュニティホーム白石
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

コミュニティホーム八雲
 二海郡八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2000

コミュニティホーム美唄
 美唄市東5条南7丁目5-1
 ☎0126-66-2001

コミュニティホーム岩内
 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎0135-62-3800

●軽費老人ホーム(ケアハウス)

食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして自立の維持ができる施設です。

カムビル西円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-5500

社会復帰生活支援

●認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。

グループホーム白石の郷
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
 ☎011-864-5861

グループホーム西円山の丘
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-2200

●短期入所生活介護(ショートステイ)

事情により介護ができないときに短期間入所いただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をします。

西円山敬樹園ショートステイセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021

月寒あさがおの郷ショートステイセンター
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333

岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター
 岩内郡岩内町字野東69-4
 ☎0135-62-3131

ショートステイセンターつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726

コミュニティホーム白石ショートステイセンター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

●地域包括支援センター

高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。

札幌市白石区第1地域包括支援センター
 札幌市白石区本通4丁目北6-1 五光ビル3F
 ☎011-864-4614

岩内町地域包括支援センター
 岩内郡岩内町字野東69-26
 ☎0135-61-4567

札幌市白石区第3地域包括支援センター
 札幌市白石区本通17丁目南5-12 清友ビル1F
 ☎011-860-1611

介護予防在宅支援

●介護予防センター

高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。

札幌市中央区介護予防センター円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6056

札幌市中央区介護予防センター曙・幌西
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6055

札幌市白石区介護予防センター白石中央
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5535

札幌市南区介護予防センター定山溪
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3311

札幌市手稲区介護予防センターまえた
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3141

札幌市白石区介護予防センター本通
 札幌市白石区本通17丁目南5-12 清友ビル1F
 ☎011-876-8965

●通所介護(デイサービス)

要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。

あおばデイサービスセンター
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎011-893-5000

デイサービスセンターすまいる
美幌市東4条南5丁目1-4
☎0126-66-2525

デイサービス虹色
札幌市南区藤野2条12丁目20-1
☎011-211-0230

円山溪仁会デイサービス
札幌市中央区北1条西19丁目1-2
☎011-632-5500

月寒あさがおの郷デイサービスセンター
札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
☎011-858-3333

手稲溪仁会デイサービスつむぎ
札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
☎011-685-2568

すすつ銀河の杜デイサービスセンター
虻田郡留寿都村留寿都186-18
☎0136-46-2811

小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷
札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
☎011-811-8110

小規模多機能型居宅介護つむぎ
札幌市手稲区前田3条9丁目2-7
☎011-686-0300

小規模多機能型居宅介護あおば
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎011-893-5555

小規模多機能型居宅介護 白石の郷
札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
☎011-864-3100

サテライト型小規模多機能ホームびなす
札幌市白石区東札幌5条3丁目2-32-103
☎011-595-8461

小規模多機能型居宅介護 西円山の丘
札幌市中央区円山西町4丁目3-21
☎011-641-1081

認知症対応型通所介護(デイサービス)

手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい)
札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
☎011-685-3328

●指定居宅介護支援事業所

介護支援専門員(ケアマネジャー)が介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。

ケアプランセンター 溪仁会西
札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
☎011-685-2322

居宅介護支援事業所すまいる
美幌市東4条南5丁目1-4
☎0126-66-2525

ケアプランセンター ころろ ようてい
虻田郡留寿都村留寿都186-18
☎0136-46-2811

札幌西円山病院在宅ケアセンター
札幌市中央区円山西町4丁目7-25
☎011-642-5000

居宅介護支援事業所 やくも
北海道八雲町栄町13-1
☎0137-65-2121

ケアプランセンター 溪仁会東
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
☎011-864-2252

ケアプランセンター さつき
岩内郡岩内町字野東69-26
☎0135-67-7801

●訪問診療

通院が困難な患者さんのご自宅等へ医師が訪問し、医療サービスを提供しています。

溪仁会真駒内在宅クリニック
札幌市南区真駒内本町5丁目1-8 第5ナベビル2F
☎011-590-5378

●訪問看護

看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。

はまなす訪問看護ステーション
札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
☎011-684-0118

訪問看護ステーションエール
札幌市南区真駒内本町5丁目1-8 第5ナベビル2F
☎011-590-5448

訪問看護ステーションあおば
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
☎011-893-5500

にしまる訪問看護ステーション
札幌市中央区南10条西18丁目1-40
☎011-211-4700

訪問看護ステーション岩内
岩内郡岩内町字野東69-26
☎0135-62-5030

●訪問介護(ホームヘルパーステーション)

ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション
札幌市中央区円山西町4丁目3-20
☎011-644-6110

コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション
北海道八雲町栄町13-1
☎0137-65-2122

コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
☎011-864-2008

ケアセンター ころろ ようてい
虻田郡喜茂別町字伏見272-1
☎0136-33-2112

ホームヘルパーステーションすまいる
美幌市東4条南5丁目1-4
☎0126-66-2525

ソーシャルヘルパーサービス
札幌市中央区北8条西18丁目1-7
☎011-633-1771

●医療法人 稲生会

身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。

■生涯医療クリニックさっぽろ
☎011-685-2799

■短期入所事業所どんぐりの森
☎011-685-2799

札幌市手稲区前田4条14丁目3-10(住所共通)

■訪問看護ステーションくまさんの手
☎011-685-2791

■北海道医療的ケア児等支援センター
☎050-5443-6064

■^{イリバ}居宅介護事業所 Yiriba
☎011-685-2799

■保育所等訪問支援くるくる
☎011-685-2799

生活支援
通所介護

在宅支援
生活支援

医療的
ケア児等
支援

地域医療
支援

医療法人 溪仁会 法人本部

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F / ☎011-699-7500(代表)

社会福祉法人 溪仁会 法人本部

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F / ☎011-640-6767



「ずーっと。」

人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任(CSR)経営を推進します。
高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

<https://www.keijinkai.com>

